浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

学　報

vol.151

4

2015.4.1

目　　次

○大学ニュース

・平成26年度学位記・修了証書授与式 ・・・ 1

・平成27年度入学式 ・・・ 7

・永年勤続者表彰 ・・・ 9

・国際交流のつどい ・・・ 10

○学会・研究活動等

・第33回周産期シンポジウムを開催して ・・・ 10

○諸報

・研究助成金等の採択（平成26年１月～３月） ・・・ 11

・地域貢献活動状況一覧（平成26年度） ・・・ 12

・平成27年度各種委員会委員名簿 ・・・ 28

・管理運営組織 ・・・ 31

・会議 ・・・ 32

※各項目をクリックすると該当ページにジャンプします。

平成26年度学位記・修了証書授与式

平成26年度学位記・修了証書授与式が３月16日（月）アクトシティ浜松・中ホールにおいて行われ、医学科卒業生105名、看護学科卒業生65名、大学院医学系研究科修了生31名、論文博士５名および助産学専攻科16名に対し、学長から次のような式辞がありました。

式　辞

学長　　中　村　　　達

長くて寒かった冬が明けて春の兆しが見えてきましたこのよき日、ここに、平成26年度浜松医科大学学位記・修了証書授与式を迎えることができました。卒業生ならびにご父兄の皆様方に、心からお祝いを申し上げます。本当におめでとうございます。また、本日、卒業生の皆さんを祝福するためにこの式典にご参集いただきましたご来賓や職員の皆様に厚く御礼申しあげます。

本日、学位記および修了証書を授与される方は、卒業生、医学科105名、看護学科65名、助産学専攻科16名、大学院博士課程医学専攻18名、修士課程看護学専攻13名、および論文提出による論文博士5名の、計222名であります。

栄誉ある学位記・修了証書授与式を迎えられました皆さんのお喜びは勿論のこと、これまで皆さんが晴れてこの日を迎えるのを心待ちにし、長きにわたって物心両面で支えて下さったご家族の皆様におかれましても、お喜びはひとしおであろうと思います。また、修士あるいは博士学位を晴れて授与される方におかれましては、皆さんが快適な学園生活を送れるよう日夜指導してくれました教職員一同も心から喜んでおります。本日、ここにこうして皆で喜びを共にできる幸せをかみしめ、この日の感激を忘れることなく、生涯感謝の気持ちで日々精進されますよう願っております。

医学科の学生は6年間、看護学科の学生は4年間でしたが、それぞれ医療人としてプロの世界を目指す皆さんの人生では重要な期間だったはずです。顧みますと、我々教職員にとってもこの10年間は大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、本学の特色を一層明確にしていくために、開学以来40年を経過しているキャンパスをリニューアルし、教育・研究・診療などあらゆる分野について改革してきました。しかし、開学の理念は変わることなく、本学の使命は、質の高い医師・看護師の養成、独創的研究の推進と先進的・先端的医療の提供、地域医療の中核的役割などを担い、社会に貢献することであります。本学はこれらの目標に向かって頑張ってきており、これからも良き伝統は脈々と受け継がれる筈です。皆さんは本学の卒業生であることを生涯の誇りにしていただきたいと思います。

さて、先ず、医学科を卒業される皆さんに申し上げます。皆さんは、医師国家試験が終わり、試験の連続から解放され、ほっと一息ついているところかと思います。ところが本当の試験はこれから始まるのです。今は「学生時代の試験」が終ったに過ぎず、これからは「医師として、人間としての本格的な試験」が始まります。皆さんがこれまでに学んで来たことは、医学・医療に関するほんの一部分であり、基礎的な原理を学んだに過ぎません。実際に行う医学・医療は実学であり、これから長い時間をかけて学び体験し身につけて行くのです。医師としての知識、技術、そして人間としての教養など、バランスのとれた総合力を身につけて社会に、世界に羽ばたいて欲しいと思います。

人の命を預かる医師の責任は極めて大きく、絶えず学び、生涯磨いて行かねばなりません。

医学、医療の技術は大きく変わって常に進歩しています。例えば、腹部の外科では、大きな傷をつくってお腹の手術を行っていましたが、腹腔鏡を用いて小さな傷で大きな手術をするようになりました。それがいまやrobotic surgeryが導入され、手術による侵襲が軽く、患者さんは術後の痛みが少なく、早く回復して早く退院できるようになりました。このような医療の現場の変化に伴って医療機器の発達は目覚しく、医師たちの技術も高度になってきています。臓器移植による治療も目覚ましい発展をとげ、実績が積み重ねられてきました。さらに再生医療が将来各種疾患や障害、ひいては悪性腫瘍の治療まで変わっていく兆しが見えています。このような変化は医療ばかりでなく、研究においても大変な進歩を遂げています。こうした新しい変化に対応する力は、学び続け、常に一流を目指し、立派なプロフェッショナルになるんだという「やる気」を持ち続けることにより得られます。医療を実践する立場からみて、環境、社会構造、経済の動静、国民の意識など、医療に関係する情勢が刻々と大きく変化しています。医療ばかりでなく、すべての人々を取り巻く世界は歴史を圧縮したかのように 速いスピードで変わっていきます。世の中を大局的に見ていく目を持って医療人のプロフェッショナルとして活躍し貢献していただきたいと願います。

次に看護学科を卒業される皆さんに申し上げます。看護の「看」は「みる」と読みます。「看」という字は「手」という字と「目」という字で出来ています。手は体を象徴していて、体全体を使って「献身的に人の面倒を看る」という意味であります。看護師のプロフェッショナルを目指す皆さんに対して社会はたくさんのことを期待しています。世界一の長寿社会になっている現在、高齢者向けの在宅医療が大部分を占める時代になっていきます。在宅ケアばかりでなく、専門性の高い、また高度な知識と技術も要求されます。現在150万人くらいの看護職員を平成37年ごろまでに200万人まで増やしていく計画があります。そんな状況下で卒業される皆さんは、これまで受けてきた試験とは違い、範囲のない広い知識と高度な技術を身に付けていかねばなりません。さらに将来は後続してくる若い人たちを指導していくことも担わねばならないと思います。そんな中で自分を高めて遅れを取らないためには常に学ぶ精神が必要です。絶えず学び、各種専門看護師の資格を取得していくという上昇志向を持って行かれれば、本学で学び、卒業されたことは皆さんの人生で誇りになると思います。

助産学専攻科の卒業生の皆さんに一言ですが、申し上げます。この世に尊い命を授けられた新生児が生れ出てくるとき光に浴することを初めて先導して頂く人になられる訳です。ありがたい尊い仕事です。現在、少子化が社会問題になっています。周産期については出産年齢が高くなる傾向にあり、今後ハイリスク分娩が増えていき、働きながら出産し育児をする女性が増えていくでしょう。そうした社会で母親となる人を安心へと導き、これから生れ出てくる小さい命を導いてやってください。

本日医学博士の学位を授与された皆さんに申し上げます。博士学位を取得された方は取らない方と比べて見かけ上は変わりないように見えるかもしれません。しかし、大きな違いがあるのです。博士学位として認められる仕事は、すでに世に出された仕事と同じであってはならない。学位を取得することは簡単なことではなく、世に初めての結論を出すまでの発想、議論、情報収集、研究の方法と技術の習得、考察、そして失敗を繰り返し、苦労をして成し遂げられたのです。その結果を評価され、博士学位を授与するに相応しいとされたのです。計画を立て、挑戦し、失敗する。失敗するからこそ進化する。諦めないで続けてきたこのプロセスと成功の感動が、あなた方の血となり肉となっているのです。そうした体験でリサーチマイ

ンドが身につき、板に付くのです。日常の患者さんを見る目、これから出くわすであろういろいろな新しい事象を「なぜだろう」と考える。「正しいものの見方、考え方」が知らぬ間に身について、以前とは違ってきているはずです。世界に一つしかない仕事を成し遂げるまでの過程で得たものは、人生で掛け替えのない力であり、宝なのです。学位取得を誇りにすると共に、それに相応しい人格、見識を身につけ、さらに学び続けて発展して行って欲しいと思います。

次に、修士学位を授与された皆さんに申しあげます。皆さんは看護学の研究者、教育者あるいは病院看護部の指導者、教育者など、将来の看護指導者を目指して学んでこられました。看護学修士という学位は、看護学をまさにマスターした証であり、看護指導者への道のりの第一歩を踏み出した証でもあります。指導者になるためには、それなりの自覚と努力が必要です。一層の専門性が要求され、人格的にも磨かれねばなりません。医療・保健・ケアの現場もますます高齢者が増加していく社会の変化と共に大きく変わりつつあります。願わくは皆さんは、各種の看護専門職の資格を取得し、生涯学び続け、優れた看護指導者になってください。看護研究はまだまだ発展していきます。日本の看護学の質と水準を向上させ、社会のニーズに応えるためにも、より深くより広く学び努力されるとともに、皆さんは人間性豊かなヒトに成長され、困った人たちに尽くし、社会に貢献されることを期待しています。

外国からの留学生の皆さんに申し上げます。留学生の皆さんにおかれましては、本学で学んだ医学研究の方法や習得した医療技術を持ち帰り、母国の医学・医療の発展に役立ててください。また皆さんの母国とわが国との友好関係の発展、強化のための架け橋となっていただきますよう願っています。

最後に、本学は、地域に根ざし、世界にはばたき、きらりと個性輝く特色のある大学にしたいと頑張っています。皆さんは母校を誇りにしつつ、心ある医療を実践し、常にベストを尽くして社会に貢献していただきたいと思います。

学位記および修了証書授与のこのよき日に当たり、皆様の前途を祝福するとともに、大いなる期待を寄せていることを申し上げて祝辞といたします。

在学生挨拶

在校生代表　若　松　真　央

身に染みる寒さも、日を追って和らいでいく風に春の訪れを感じるこの佳き日に、浜松医科大学を御卒業ならびに大学院課程および助産学専攻科を修了される皆様、御卒業本当におめでとうございます。在学生一同、心よりお祝い申し上げます。

大学生活において多くの時間を共に過ごしてきた、優しく頼れる医学科の先輩、また私たちを慕ってくれるかわいい後輩である看護学科の皆様の卒業がこんなにも早く訪れ、時の過ぎゆく速さへの驚きとともに寂しさがこみあげてまいります。

今、皆様は、この浜松医科大学で過ごした時間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。医療の道を志し、ここ浜松医科大学に御入学されて以来、多くの人との出会いの中で貴重な経験をし、それぞれにかけがえのない思い出を築き上げてこられたことと思います。それらの出会いや経験は、学生時代のよき思い出であると同時に、一つひとつがこれからの人生における皆様の心の糧となることでしょう。

また、大学生活を送られる上で、御両親、また御家族のもとから離れて生活されていた方が多いと思います。遠くにいるからこそ、御家族のありがたみや優しさを強く感じられ、家族の絆も改めて認識できたのではないでしょうか。もちろん、ご自宅から通われていても、御家族の支援があったからこそ、有意義な学生生活を送られることができたのではないかと思います。

そして、私たち在校生にとっても、卒業される皆様との思い出はとても大切なものとなっています。医学科の先輩方は、5年もの間大学生活を共にしました。振り返ってみると先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。夜遅くまで勉強に励まれていた姿や、臨床実習で患者さんと真剣に向き合われていた姿から、医学に対して真摯で、ひたむきに努力し続ける姿勢を学びました。一年後の自分たちがどのように過ごしているかのお手本のような存在で、悩んだときに一番身近で相談できたのも先輩方でした。看護学科の皆様は、私たちにとって初めての後輩であり、至らないところも多かった私たちを慕い、優しくサポートしてくれました。臨床実習においても、患者さんに優しい笑顔で接していた姿が今でも目に浮かんできます。

さて、医学は日々進歩し、多様化していくため、医療に携わる者も常に成長し続けていかなければなりません。今日ここに、新たなる長い道への第一歩を踏み出される皆様が、浜松医科大学の卒業生であることを誇りとし、これからも精進され、人間性豊かな信頼される医療者となり、後に続く我々の道しるべとなって下さいますようお願い申し上げます。

私たちも、皆様がこの浜松医科大学を卒業されたことを誇りに思い続けられるよう、長年築き上げられた伝統を引き継ぎ、更なる発展のため鋭意邁進する所存でございます。

お別れに臨み、卒業生の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

謝　辞

医学科卒業生代表　　向　山　拓　矢

心地よい春風に乗って、ほのかな花の香りが漂う頃となりました。早春のこの佳き日に、私どものためにこのような厳粛かつ盛大な学位記・修了証書授与式を執り行っていただきまして、誠にありがとうございます。また、ご来賓の皆様をはじめ、学長先生、諸先生方、ご父兄の皆様には、ご多忙の中ご臨席を賜り、医学科卒業生を代表して、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば６年前、私たちは医学の道を志し、ここ浜松の地に集い、期待と不安を胸に抱きながら、入学式を迎えました。

入学当時の私たちは、右も左もわからず、医学という学問の大きさに戸惑うばかりでした。一般教養、基礎医学、臨床医学と習得すべき知識は膨大に

なっていきましたが、医学の奥深さ、魅力も徐々にわかり、勉学に励むことができました。試験前に仲間同士で夜遅くまで勉強したことは、今となっては懐かしき思い出です。いざ臨床実習が始まると、臨床の現場に触れることができる喜びを感じ、患者様の経過が良好であると嬉しく思い、反対に患者様を前に自身の無力さを痛感する機会も数多くありました。先生方は辛抱強く丁寧にご指導くださり、時には患者様からの温かい言葉が大きな励みになることもありました。

日々の勉学や課外活動はもちろんのこと、在学中に先生方・患者様から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得たことは計り知れず、私たちの今後の人生における貴重な財産となることと思います。心から御礼申し上げます。

これから私たちは２年間の研修を経て、それぞれの道を歩んでいきます。その過程では幾多の試練があると思いますが、母校で培った６年間の経験を礎として困難を乗り越えていきたいと思います。決して現状の知識や能力に甘んじることなく、生涯にわたり研鑽を積み、医師・医学研究者として社会に貢献できるよう情熱を持って邁進する所存です。

最後になりましたが、６年間を通し、ご指導・ご鞭撻いただいた先生方、臨床実習でお世話になった患者様、ご父兄の皆様、職員の皆様、そしてお世話になったすべての方々に改めて御礼申し上げます。

謝　辞

看護学科卒業生代表　　溝　尻　佳　奈　子

日増しに春の暖かさを実感するようになった今日の良き日に、このような盛大な学位記・修了証書授与式を挙行していただき、我々看護学科卒業生一同、心よりお礼を申し上げます。

私たちは看護の道やさらなる専門知識の習得を志し、ここ浜松医科大学に入学しました。私は看護師としての臨床経験から、予防分野を学びたいという強い希望がありました。と同時に、歳の離れた学生の中で学ぶことや講義についていけるか大きな不安を抱えていました。しかし、同級生たちは年代に関係なく親しく交流をしてくれました。また、講義や実習に熱心に取り組むだけではなく、ボランティア活動や部活動・サークルに打ち込んだり、休み時間まで自己学習を行なったり、グループワークでは自分の意見をきちんと述べ、他者の意見を聞くことが出来るといった主体性があり、私はとても良い影響を受けました。

さらには諸先生方が、私を臨床経験のある学生として尊重しつつも、新しい分野を学ぶ一学生として受け入れ、疑問など真摯に応えて下さいました。実習や卒業研究では、温かく、時に厳しく、熱心なご指導を受けることができました。このような浜松医科大学の風土や環境で学ぶことが出来たことで、専門知識の習得だけではなく、より人間的な成長を実感し、今は感謝の気持ちでいっぱいです。学生生活では特に、地域や事業場での実習が対象者理解において有意義でした。

私は今まで、患者さんを臨床の一場面の人として捉えがちであったように思います。入院患者さんは

いずれ退院して地域社会に戻り、学校、職場、家庭での生活を送るという、日々の生活を営む存在であることを再確認し、どんなところに住んでどんな生活をしているのかというその地域社会を理解することが対象者理解につながるのだと学びました。加えて医療だけではなく、広い視点つまり保健、医療、福祉が連携して支援することが対象者の住む地域社会の貢献にもつながるのだと認識し、関わる必要があると学びました。

春から看護学科の学生は臨床へ、また、行政、事業場、進学など一人一人が新たな道を歩みだします。事業場の保健師として歩みだす私ですが、希望や不安を抱えています。幾多の試練があるかもしれません。しかし、浜松医科大学での様々な学びや経験を心の糧に、また、中村学長が入学式でおっしゃられた「生涯学習」を継続していけば、乗り越えられるかもしれない、そしていつか今日という日を「あの頃」と呼ぶ時には、それぞれが一人の人間としてより成長できているように、新たな決意をもって歩みだすことをここに誓います。

最後になりますが、中村学長をはじめ大学の諸先生方、事務の関係者の皆様、病院、施設、保健所、企業など実習施設の皆様、日々支えてくれた家族、すべての方々に深く感謝の意を表し、また浜松医科大学のより一層の発展を願って、謝辞とさせていただきます。

謝　辞

大学院医学系研究科および助産学専攻科修了生代表　　斎　藤　貴　明

厳しい寒さも終わり、春の訪れを感じる今日の良き日に、このような盛大な学位記・修了証書授与式を挙行していただき、私たち大学院博士課程および修士課程修了者、論文博士授与者、助産学専攻科修了者一同、心より感謝を申し上げます。

大学院修了生・論文博士授与者は、医療関係者として臨床の現場で経験を積んだのち、再度、学生として研究生活に身をおく者、社会人としての活動を経て、社会人学生として在籍する者、あるいは論文博士取得のために研究する者、そして修士課程修了後に博士課程に進学した者、様々な立場で別々の研究活動を行って参りました。また、助産学専攻科修了生は、地域周産期の充実と母子保健への貢献を志し、質の高い助産技術と実践能力の習得に努めて参りました。それぞれの立場は違えど、皆が目指す目標の柱となるものは、きっと同じだったと思います。

長いようで短い研究期間でありましたが、私は今まで臨床医学のみに携わってきたので、臨床医学は基礎研究という大きな土台の上に成り立っており、さらにそれらは人と人とが教え合い、助け合うことで成り立っているということを再認識させられました。どちらも、必ず上手くいくとは限らず、失敗を繰り返し、その過程を見直し、人の意見を聞き入れ、協力し切磋琢磨していくことが非常に大切であることも再認識することができました。皆が苦労しながらも今日この日を迎えられたのも、そうした環境、人間関係がこの浜松医科大学には十分に備わっていたからだと確信しております。

この先、我々は各個人、違った目標をもって進んで参りますが、基礎研究で得た様々な知識・武器・宝をもって、向かってくる大きな波を１つ１つ乗り越えていく所存であります。その時には、先人が我々にしてくれたように我々も新たな乗組員に対し、救いの手を差し伸べ、協力していくことでどんな荒波にも立ち向かうことができると確信しています。

最後になりますが、今日まで私たちを温かく見守り、多くのご指導を賜りました、中村学長をはじめとする諸先生、諸先輩方ならびに関係各位の皆様のご健康と浜松医科大学の益々の発展をお祈りしまして、謝辞とさせて頂きます。

平成27年度入学式

平成27年度入学式が４月６日（月）アクトシティ浜松・中ホールにおいて行われ、医学科入学生115名、医学科２年次編入学生５名、看護学科入学生60名、看護学科３年次編入学生10名、大学院医学系研究科博士課程（医学）入学生34名、大学院医学系研究科修士課程（看護学）入学生16名に対し、学長から次のような告辞がありました。

告　辞

学長　　中　村　　　達

例年になく寒かった冬が明けて一気に桜が開花し、このような時期に入学式を迎える慶びはまた格別です。平成27年度浜松医科大学入学式を挙行するにあたり、新入学生の皆さんに心から「おめでとう」と申し上げます。また、今日という日を一日千秋の思いで待ち望んでこられたご家族の皆様に、心よりお祝い申し上げます。

平成27年度４月の新入学生は、医学部医学科115名、医学科２年次編入学生５名、看護学科60名、看護学科３年次編入学生10名であります。大学院医学系研究科博士課程34名、修士課程16名で、総計240名が本日入学の日を迎えました。

先ず医学部医学科、看護学科および両学科の編入学生の皆さんに大学在学中に身に付けて欲しい心得を中心に述べたいと思います。今、皆さんの心は、難関を見事に突破できた喜びと将来への夢で満ち溢れているに違いありません。この感激は、生涯忘れ得ぬものとなる筈です。是非、今日という日を将来どんな医療人になりたいのか、それに近付くためにはどうすれば良いのか、などをよく考える一日にして欲しいと思います。

近年、医学の分野における診療および研究は凄まじいスピードで発展し、その知識・技術等の情報量は膨大になってきています。また実践の場では、社会構造、政治、経済、文化などの変革・変化と共に取り扱う範囲は拡がる一方です。しかも、各分野が益々高度化し、専門化しています。このような状況下で、最新の医学や医療の知識・技術を身に付けることは容易ではありません。常に学び続けないと、瞬く間に取り残されてしまいます。皆さんが大学で学ぶことが、卒業後、陳腐なものとなるのに何年も掛からないくらいです。そんな世界に入って来られる皆さんに求めたいのは、まず、学問の縦軸方向の高度化および専門性を深めることは勿論のこと、横軸方向のヒトとしてあるべき常識的なこと、教養、人柄、周囲の人たちとの協調性、コミュニケーション能力といった医学とは別の広い分野の能力や技術を身に付け、よい友を求め、見識を深めて学生時代を過ごして欲しいということです。縦軸と横軸のバランスのとれた人間を目指すことが大切だと思います。皆さんはこれから生涯医療について勉強して行きますが、学生時代には医学以外のことについてた

平成27年度入学式

くさん読み、聞き、体験して学んでください。医療人は世間の一般的常識には疎い感じがします。在学中に常に情熱をもって学び、豊かな知識と見識を備え、広い視野をもって行動力のある人に成長されるよう期待しています。

大学では、ただ与えられたものを学ぶような学習ではなく、自分が知らない問題を設定し、それを自ら考え、解決しながら学習するという方法で問題を解決する能力を身につけていきます。これを問題解決能力といいます。問題が解決すれば感動が得られ、生涯忘れられない記憶となります。このことはどこの大学に入るとか、どの分野を選ぶとかの問題ではなく、大学に入学し、あるいは仕事に就いた人たち全てに共通することであります。「やる気」が大切で、それがいつまでも継続することがさらに大切なのです。習慣化すると効率的となり、徹底的に追及することをお勧めします。こだわりを持って追求するとさらに知識・技術は磨かれます。

在学中に必ず身に付けておくべきもう一つ重要なことは、「医療人としての正しい倫理観」です。倫理観を身につけるとは、人々に対して「思いやり」の心を持ち、更に実践する勇気を持つことです。医学・医療の究極の目的は、命の尊厳を大切にすること、病人を思いやる心を持って我が身を捧げることであります。正しい医療倫理を身に付け、さらに、プライドと責任を持って行動しないといけない社会的立場に立ったことを自覚してください。

18歳人口が減少していく将来に向けて、高等学校教育、大学教育を一体改革していこうという動きがあります。知識、技術を磨くばかりでなく、「真に学ぶ力」をつけさせたいと考えているのです。将来の日本を背負っていく若者に「思考力、判断力、表現力、多様性、主体性、そして一緒に協力して働くという協働性」などの能力を身に付けさせたいのです。真に学ぶ力を備えた若者が育成されれば、社会も大きく変革されると思われます。皆さんは将来を嘱望されている人たちです。国の期待を担って頑張ってください。

次に、大学院博士課程および修士課程に入学された方に申し上げます。大学院では、優れた研究者を育成することを目的としていますが、近年、医療系大学院が果たすべき機能が多様化し、研究方法や内容は非常に高度な専門的な知識と技術を身に付けないとついて行けないほど難しくなっています。本学では、いろいろな分野の先端的な研究ができるように環境を整えてきました。そんな中で、皆さんリサーチマインドを身に付けて追求していく情熱が大切です。リサーチマインド とは論理的思考に基づいてものごとを探求する心のことです。努力した分だけ必ず身に付きます。高度で専門的な判断が必要な場面では論理的思考に基づいて物事を判断できるかどうかで大きな違いがでてきます。大学院に入学された意義は、ものの見方、考え方、ひいては人としての生き方などに影響が現れてくるはずです。人生で大きな挑戦をされていると思います。失敗してもくじけず頑張れば自分の中で進化していきます。

「初心忘れるべからず」という言葉をご存知と思います。初心はすべての人にとって夢であり、目標なのです。600年ほど前に能楽という現在の歌舞伎の基礎を創った世阿弥がはじめて言った言葉ですが、人生には分岐点、あるいは節目があり、その節目で壁にぶつかる。壁に打ち克っていくために目標を立てる。そのときの初心を言っているのです。初心というのは今回の入学時の初心に限ることなく、人生の節目、節目で抱く初心を忘れず目標を持って挑戦していけば、道が開け、夢は必ず叶います。

医学・医療の世界は、社会の多くの人々に期待されているだけに、厳しい世界です。襟を正して門をくぐって下さい。皆さんが社会の期待に応えてくれるようお願いして、告辞と致します。

永年勤続者表彰

去る３月27（金）、本学管理棟２階第二会議室において永年勤続者表彰式が執り行われ、学長から次の方々に表彰状が授与されました。

【永年勤続表彰者】

大西　一功　（附属病院腫瘍センター教授）
佐藤　重仁　（麻酔・蘇生学講座教授）
佐藤　英二　（医化学講座助教）
鈴木　一成　（技術部技術専門員）
藤江三千男　（技術部技術専門員）
小楠　敏代　（技術部技術専門職員）
内山　幸則　（検査部副臨床検査技師長）
藤村　祥子　（手術部医療技術補助員）
井美恵美子　（放射線部主任診療放射線技師）
後藤　誓司　（放射線部主任診療放射線技師）
銭袋　政勝　（栄養部調理師）
手塚　宣夫　（栄養部調理師）
鈴木　克也　（栄養部調理師）
桑原　弓枝　（看護部看護部長）
金田　輝美　（副看護師長）
坪井　桂子　（看護部看護助手）
袴田　富子　（看護部看護助手）
桶田美佐代　（看護部看護助手）
内山　優子　（人事課主任）

【列席者】

中村　達（学長）
小出幸夫（理事・副学長）
鈴木　修（理事・副学長）
前田　広（理事・事務局長）
西山　仁（監事）
今野弘之（副学長）
福田敦夫（技術部長）
阪原晴海（放射線部長）

【式次第】

開　式
表彰状授与（記念品贈呈）
学長式辞
被表彰者謝辞
閉　式

平成26年度国際交流のつどい

3月2日（月）18時30分より、クイーンズヒル（浜松市東区半田山）において、本学に日頃よりご支援いただいている国際交流事業関係者、地域住民の方々に感謝の意を表すとともに、外国人留学生、研究者と親睦を深めることを目的として、「平成26年度国際交流のつどい」を開催しました。

本学では、平成26年度にインドおよび中国から新たに外国人留学生を迎え、計6か国、19名の外国人留学生と8名の外国人研究者が在籍しています。

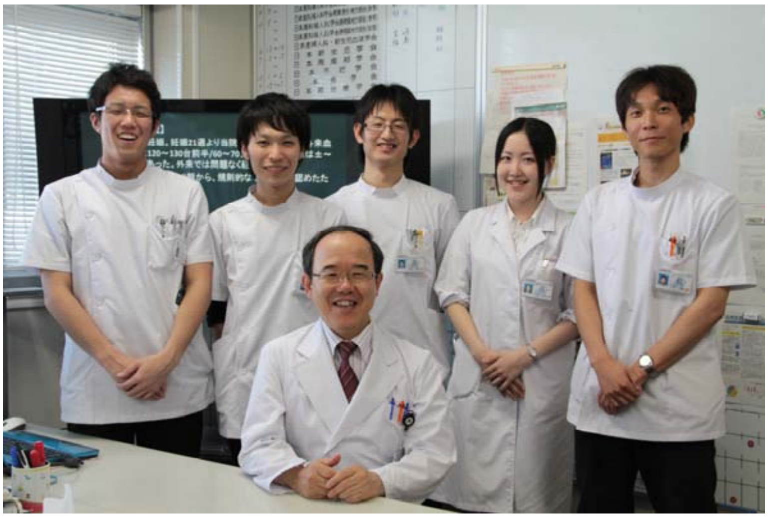
学長挨拶や来賓紹介の後、参加者は和やかに交流を深め、バングラデシュ留学生による出身国の紹介のビデオや歌の披露も行われました。

第33回周産期シンポジウムを開催して

産婦人科学講座　教授　金山尚裕

日本周産期・新生児学会の周産期シンポジウムは旧日本周産期学会の学術集会であり、平成16年度に日本周産期学会と日本新生児学会が平成15年に合併し名称が変更されました。

今回浜松医科大学が第33回周産期シンポジウムを担当し、平成27年1月23～24日の2日間、静岡県浜松市のアクトシティコングレスセンターで開催いたしました。全国から2日間で662名の参加があり成功裏に修了いたしました。初日は光先端都市浜松を宣伝するため、「光と周産期医学」というテーマで特別講演を3つ組みました。浜松ホトニクス中央研究所の山下豊先生からは「近赤外線を用いた生体計測―原理から臨床応用まで―」というタイトルで近赤外線医学についてわかりやすく解説して頂き、新生児分野では香川大学の日下隆教授に「光を用いた新生児の脳循環と機能評価」というテーマでの講演を頂戴いたしました。



最後に私が産科分野から「近赤外線を用いた新しい母児管理」について講演しました。私の講演内容は2つで、一つは浜松ホトニクスと共同研究である近赤外線分光法（TRS法）を用いた新しい妊婦の脳循環モニタリング法について、もう一つは浜松医科大学、静岡大学、アステム（株）で共同開発した胎児オキシメーターについて紹介いたしました。後者は内診指接着型胎児オキシメーターで、医師や助産師の指腹にセンサーを装着し内診時に胎児の酸素飽和度が測定できるものです。従来の患者さんにセンサーを装着するのではなく診察者の指にセンサーを装着し、しかも透明な手袋下にセンサーがあるので、非侵襲的に胎児酸素情報が得られます。静岡新聞や中日新聞にも取り上げられたこともあり、全国の先生から大変な関心を集めました

2日目は全国から厳しい選考の結果選ばれた演者によるシンポジウムです。全体テーマは「周産期の炎症と感染～長期予後改善を目指して」でした。午前は周産期の炎症・感染への挑戦、午後は絨毛膜羊膜炎と長期予後との内容で、多くの質問、議論があり、参加者は実りのある成果が得られたことと思います。いずれにしましても本学術集会を通して浜松、浜松医大を十分アピールできた学会でした。

研究助成金等の採択（平成27年1月～3月）

単位（千円）

所　　属	職　　名	研究者	研　究　助　成　機　関	助成金額
分子生物学	教授	北川　雅敏	公益財団法人　上原記念生命科学財団	5,000
薬剤部	薬剤主任	見野　靖晃	公益財団法人　薬学研究奨励財団	700
整形外科学	准教授	星野　裕信	公益財団法人　骨粗鬆症財団	500
産婦人科学	教授	金山　尚裕	公益財団法人　日母おぎゃー献金基金	2,000
神経生理学	助教	渡部　美穂	公益財団法人　稲盛財団	1,000
周産母子センター	メディカルアシスタント	小野　裕之	公益財団法人　成長科学協会	600

平成26年度厚生労働省科学研究費等補助金一覧

単位（千円）

所属	職名	研究者	代表者 分担者	研究事業名	研究課題名	交付 決定額
感染症学（ウイルス学・寄生虫学分野）	教授	鈴木　哲朗	分担者	肝炎等克服実用化研究事業（B型肝炎創薬実用化等研究事業）	B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	※12,000 （2,000）
感染症学（ウイルス学・寄生虫学分野）	教授	鈴木　哲朗	分担者	肝炎等克服実用化研究事業（肝炎等克服緊急対策研究事業）	HCVに対する抗ウイルス治療後、SVR後の病態に関する研究	4,000
内科学第一	教授	宮嶋　裕明	分担者	難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（難治性疾患等実用化研究事業））	運動失調症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班	1,000
内科学第二	教授	須田　隆文	分担者	難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（難治性疾患実用化研究事業））	びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	500
皮膚科学	准教授	平川　聡史	分担者	難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（難治性疾患実用化研究事業））	先天性リンパ管疾患の診療指針作成及び病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究	1,200
臨床薬理学	教授	渡邉　裕司	分担者	地球規模保健課題解決推進のための研究事業	東アジア地域での薬剤応答性における民族差と国際共同治験や医薬品使用の実態に関する調査研究	3,000
精神科神経科	講師	岩田　泰秀	分担者	障害者対策総合研究事業（障害者対策総合研究開発事業（精神障害分野））	血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究	1,800
整形外科	診療 助教	戸川　大輔	分担者	長寿科学研究開発事業	骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	700
医療情報部	教授	木村　通男	分担者	医薬品等規制調和･評価研究事業	MID-NETを用いた医薬品等のベネフィット･リスク評価のための薬剤疫学研究等の実践的な分析手法及び教育に関する研究	900
薬剤部	教授	川上　純一	分担者			900

※は4月からの合計額　（　　）は上記内数、追加配分

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間 （年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
総合人間科学講座（生物学）ほか	第25回国際生物学オリンピック	国際生物学オリンピック日本委員会		高校生：1人	H.26.4～7	国際大会レベルに到達するよう個別学習支援を行う	国際生物学オリンピック派遣生徒に対して、生物学教室等で実験指導および個別学習指導を行った
総合人間科学講座（生物学）	サマー・サイエンスキャンプ2014	独立行政法人　科学技術振興機構		高校生：12人	H26.8.7～8.9	研究現場での実験・実習を通して科学技術への興味・関心を高める	医学部生を交えてグループ実験・発表を実施した。 「生物が見る世界ーいくつもの目といくつもの世界」
総合人間科学講座（生物学）	平成26年度第1回「のぞいてみよう！ミクロの世界」	名古屋市科学館		中学生以上/約30人	H26.9.23	「ナノスーツ」について紹介し、科学技術への興味・関心を高める	特別講座「ナノスーツって何ナノ？～高真空の中で生命維持をするナノスーツ法による生体の生態観察」
総合人間科学講座（生物学）	静大大学院工学研究科講演会	静大大学院工学研究科		静大大学院工学研究科学生ほか	H26.11.13 H26.11.20	講演を通してバイオミメティックスへの興味・関心を高める	講演「バイオミメティクスの必要性とその開発例ー生きた生物の電子顕微鏡観察など」
総合人間科学講座（生物学）	静大共同利用機器センター 分析基礎講座	静大共同利用機器センター		静大学生・教職員ほか	H27.1.19	講演を通してバイオミメティックスへの興味・関心を高める	講演「ナノスーツ法による生体の電子顕微鏡観察からバイオミメティクスまで」
総合人間科学講座（生物学）	オリンピックチャレンジ 科学オリンピックへの挑戦支援事業	静岡県教育委員会		静岡県立高校生	H27.2.8	講義を通して理数分野への意欲・能力を伸ばす	講演「視覚情報処理」および実習「盲斑」を行い、国際生物学オリンピックにチャレンジする勉強の仕方を指導した。
医生理学講座	講演「子供を熱中症から守ろう」	雄踏町医師会	後援：浜松市	小中学校教員：30人	H26. 7.17	疾患の啓蒙と予防	講演
医生理学講座	市民公開講座「血栓症のはなしエコノミークラス症候群にならないために」	日本血栓症協会	共催：中日新聞	市民：240人	H27. 2.21	疾患の啓蒙と予防	講演
医化学講座	アフリカツメガエルの中身を知り、カエルの発生を観察しよう	医化学講座	実験実習機器センター	小中学生：32人	H26.8.2～ H26.8.6	小中学生にカエルの実験を通して生命の尊さを学んでもらう	アフリカツメガエルの解剖と人工授精
再生・感染病理講座	職業講座	浜松市立浜名中学校		中学2年生：187人	H26.6.16	専門家の話を聞き職業体験につなげる	講義「基礎医学と臨床医学」
再生・感染病理講座	スーパーサイエンススクール	文部科学省	静岡県立磐田南高校	高校生：6人	H26.8.19～ 8.20	先端的な科学技術や医療を体験する	ミクロの世界の不思議
再生・感染病理講座	静岡県立磐田南高校 ミニ大学	静岡県立磐田南高校		高校生：36人	H26.9.17	大学の専門的な講義を体験する	多能性幹細胞の可能性と課題
再生・感染病理講座	平成26年度大学出張講義	静岡県立沼津東高校		高校2年生：30人	H26.10.25	生徒の進路に対する意識の高揚	講義「医師になるには、病理医とは、」
健康社会医学講座	自治体等への保健活動・調査支援講座	健康社会医学講座		自治体職員等：約40人	H26.9.1～ H27.3.20	地域の公衆衛生活動の向上	調査支援、コンサルテーション事業

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
健康社会医学講座	地域診断研修	静岡県健康増進課	県内市町村、健康福祉センター	市町村、健康福祉センター職員：約40人	H26.5.26～H26.10.6	市町・健康福祉センター職員の資質向上	地域診断等の調査研究の支援
健康社会医学講座	産業医研修会（生涯教育研修会）	浜松市医師会	静岡県医師会	医師会員等：約50人	H26.12.25	産業医・医師会会員の資質向上	健康寿命についての講演
健康社会医学講座	地域保健福祉研究学習会及び研究会	静岡県西部健康福祉センター		市町、健康福祉センター職員：約20人	H26.7.29～H26.12.8	市町村・健康福祉センター職員の資質向上	実践的な地域保健福祉活動研究の支援
皮膚科学講座	南部化成共同研究	皮膚科学講座	南部化成（株）	10人	H26.4.1～H27.3.31	製品開発	地域企業との製品共同開発に関する基礎研究
放射線医学講座	静岡県環境放射能測定技術会	静岡県			年4回	浜岡原子力発電所周辺の環境放射能測定結果の検討	会議
放射線医学講座	静岡県原子力発電所環境安全協議会講演	静岡県		県議会議員、県職員、市長、市議会議長等：約50人	H27.3.18	放射線の人体への影響と医学利用に関する情報の提供	講演「放射線の人体への影響と医学利用」
放射線医学講座	放射線講演会	静岡エネルギー・環境懇談会		地元住民：約100人／回	H27.2.14 H27.2.20 H27.3.6	放射線の基礎と利用に関する情報の提供	公開講座「医療と放射線」
産婦人科学講座	浜松医科大学公開講座	浜松医大	静岡新聞 浜松ホトニクス	600人	H27.1.17	健康増進	市民公開講座
臨床検査医学講座	浜松ホトニクス株式会社 倫理委員会	浜松ホトニクス株式会社		浜松ホトニクス倫理委員会委員	H26.4～H27.3	地域企業との連携　事業に関する支援	地元企業の事業に関する倫理相談・指導・決議
臨床検査医学講座	アイシン精機株式会社	アイシン精機株式会社		アイシン精機株式会社、新規事業推進部：10人	H26.4～H27.3	地域企業との連携　事業に関する支援	地元企業の事業に関する相談・指導
救急災害医学講座／救急部	医療・介護現場との情報交換会における講演	浜松次世代光健康医療産業創出拠点			H26.12.17	医療・介護現場との情報交換会における講演	
救急災害医学講座／救急部	医療・介護現場との情報交換会における現場見学会	浜松次世代光健康医療産業創出拠点			H27.1.13	医療・介護現場との現場見学会	
救急災害医学講座／救急部	こころざし育成セミナー　冬期フォローアップセミナー	静岡県医療健康局地域医療課		高校生、保護者、教員：166人	H26.12.26	高校生が医師を目指すことの意義について再認識する。	講演
救急災害医学講座／救急部	藤枝市立総合病院市民公開講座	藤枝市立総合病院	志太医師会	市民：約500人	H27.1.10	市民の救急医療への理解を深める	講演「救急医療」
救急災害医学講座／救急部	中学生のための蘇生講習会	浜松市医師会		市内中学生		浜松市医師会が中心となって行う心肺蘇生法講習	浜松医大病院は年間5回指導を担当している

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
救急災害医学講座／救急部	21世紀倶楽部月例会セミナー	21世紀倶楽部		市民（会員）：約50人	H26.10.21	脱法ドラッグを中心に中毒診療についての講演	
救急災害医学講座／救急部	ふじのくに防災学講座	静岡大学防災総合センター		市民：約100人	H26.12.20	市民への防災教育	講演「市民が行う災害医療」
救急災害医学講座／救急部	学校保健委員会講演	県立浜松北高校		PTA関係者、高校生：約100人	H26.12.10	学校保健委員と高校生への災害に関する講演	
救急災害医学講座／救急部	静岡県救急災害対策会議	静岡県			H26.8.5	静岡県内の救急医療、災害医療に関する方針を検討	
救急災害医学講座／救急部	静岡県メディカルコントロール作業部会	静岡県			H26.7.17、H26.10.16	静岡県内の救急隊員活動の教育指導に関する検討	
救急災害医学講座／救急部	災害医療地域連絡体制検討委員会	静岡県	静岡県病院協会	災害拠点病院と救護病院	H26.7.18	災害時の地域の連携体制について検討する	
救急災害医学講座／救急部	静岡県臓器提供移植対策会議		静岡県病院協会		H27.3.6		講演とロールプレイが行われた。
救急災害医学講座／救急部	県西部メディカルコントロール推進者	静岡県西部地区メディカルコントロール協議会	浜松市消防局、湖西消防		H26.7.17、H26.10.16、H27.1.14	県西部地区の救急隊員の活動の教育指導に関する検討	年間6回の会議
救急災害医学講座／救急部	県西部メディカルコントロール事後検証会	静岡県西部地区メディカルコントロール協議会	浜松市消防局、湖西消防		H26.6.17 H26.9.16	救急隊の活動に対する事後検証	一次検証は書類で検討し、二次検証を合同で開催（年間4回）
救急災害医学講座／救急部	浜松市医療救護対策委員会	浜松市	浜松市医師会など		H26.6.18 H26.10.22	浜松市の災害時医療についての検討	副委員長およびアドバイザーとしての参加
救急災害医学講座／救急部	浜松市救急医療員会	浜松市医師会	浜松市		H26.8.27 H27.3.4	浜松市の救急医療体制に関する会議	（代理出席）
救急災害医学講座／救急部	藤枝市立病院救急センター建設協議会	藤枝市立病院			H26.7.10 H26.8.21	藤枝市立病院救急センター建設に関する検討	会議
救急災害医学講座／救急部	袋井市医療救護計画検討会	袋井市	自治会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、中東遠医療センタ		H26.7.14	袋井市の災害時医療救護計画の検討	会議
救急災害医学講座／救急部	応急救護所班長会講演	浜松医師会		浜松市医師会会員　：約40人	H26.8.20	浜松市医師会応急救護所班長の災害知識の向上	
救急災害医学講座／救急部	第326回生涯教育研修会：中毒診療の初期診療	浜松市医師会		浜松市内医師：約40人	H26.4.24	浜松市内医師に対する生涯教育	中毒の初期治療に関する講演を行った

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
救急災害医学講座／救急部	災害医療にかかる講演	国立病院機構天竜病院		天竜病院職員：約100人	H26.5.29	天竜病院職員への災害医療の知識を高める	災害医療に関する講演を行った
救急災害医学講座／救急部	静岡市医師会救護所班長会議	静岡市医師会		静岡市医師会員	H26.9.4	静岡市医師会会員への講演	講演「災害医療で大切なことCSCATTT」
救急災害医学講座／救急部	消防職員救急研修会	御殿場市小山広域行政組合	御殿場市医師会、御殿場市	消防吏員、医師会員、行政職員：100人	H26.11.21	災害時医療についての講演	
救急災害医学講座／救急部	県眼科医会医療従事者講習会	静岡県眼科医会		眼科医会会員、医療従事者	H27.1.24	医師及び診療所職員を対象とした講演	講演「急変対応のABCD」
救急災害医学講座／救急部	静岡県災害医療従事者研修会	静岡県	静岡県病院協会	県内救護病院等職員	H27.1.28～1.30	県内病医院職員などの災害医療対応能力の向上	災害医療のスキルを指導
救急災害医学講座／救急部	静岡県災害医療コーディネーター研修会	静岡県	ACT研究所	静岡県内医療関係職員	H27.3.7～3.8	災害医療時に必要なコーディネーターの研修	
救急災害医学講座／救急部	天竜区医療救護訓練	天竜区	磐周医師会	医師会、薬剤師会、保健師	H26.10.13	災害医療訓練	トリアージ、救護所などのシミュレーション講習
救急災害医学講座／救急部	磐田市災害時初期診療講習会	磐田市	磐田市医師会、薬剤師会、磐田消防	医師、薬剤師、保健師	H26.6.23	災害時に必要なスキルを学ぶ	医師、薬剤師、保健師に対するハンズオンでのスキル指導
救急災害医学講座／救急部	湖西市医療救護訓練	湖西市	湖西消防	医師、看護師、薬剤師、保健師など	H26.11.13	災害時のトリアージを学ぶ	災害時の一次トリアージ法とトリアージタッグの記載についての講習
救急災害医学講座／救急部	浜松市医療救護訓練	浜松市	医師会、歯科医師会、薬剤師会	医師、歯科医師、薬剤師、自主防災等役：200人	H26.1116	大規模災害時の救護所を中心とした訓練	自主防災隊員による搬送から、トリアージ、処置、搬送順位決定などを含んだ訓練
救急災害医学講座／救急部	磐周医師会・森町病院・多職種合同救護研修会	磐周医師会	森町病院、森町	医師、医療関係者、行政職員	H26.12.13	災害時における迅速な救命活動を行う	模擬患者でのトリアージ訓練
救急災害医学講座／救急部	袋井市救護所従事者研修会	袋井市	袋井市医師会、盤歯科医師会、薬剤師会など	医療関係者：120人	H26.2.15	大希望災害時の円滑な医療救護活動	実際の小学校を使用しての救護所訓練
救急災害医学講座／救急部	JATECコース	日本外傷診療機構	日本救急医学会 日本外傷学会	医師：32人	H26.6.28～6.29	重症外傷初期診療教育	外傷診療に従事する医師へ、シミュレーションを中心とした教育を行う
救急災害医学講座／救急部	ACLSコース	日本ACLS協会	AHA（アメリカ心臓病協会）	医師、看護師：12人	H26.6.7～6.8、10.4～10.5、12.20～12.21	成人に対する救命処置教育	重篤患者に対する初期診療をシミュレーションを中心に教育する
救急災害医学講座／救急部	PALSコース	日本ACLS協会	AHA（アメリカ心臓病協会）	医師：12人	H26.4.19～20	重症小児初期診療教育	重症小児の初期診療をシミュレーションを中心に教育する

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
救急災害医学講座／救急部	JNTEC浜松コース	日本救急看護学会		看護師：36人	H26.7.26～27	外傷初期看護教育	外傷診療に従事する看護師へ、シミュレーションを中心とした教育を行う
救急災害医学講座／救急部	MCLS浜松コース	日本集団災害医学会		医師、看護師、救急隊員：64人	H27.1.24～25	局地災害対応能力の向上	座学、テーブルディスカッション、スキルトレーニングを含んだ災害対応講習会
救急災害医学講座／救急部	ICLS浜松医大コース	日本救急医学会		医師、看護師：12人	H26.8.16	患者急変時の対応コース	突然の心肺停止状態に対しての蘇生法をシミュレーションで学ぶ
救急災害医学講座／救急部	JMECC浜松医大コース	日本内科学会		医師12人	H27.3.21	重症救急患者の初期対応について学ぶ	
救急災害医学講座／救急部	県西部災害支援ナース研修会	静岡県看護協会		看護師：約70人	H26.9.27、H26.10.5	災害看護教育	静岡県看護協会が行う災害看護講習会への講師派遣
臨床腫瘍学講座、がん教育研究センター	平成２６年度市民公開講座	がん教育研究センター、臨床腫瘍学講座		一般：55人	H26.9.6	地域にがんについての知識・情報を広く公開し知識の普及と啓発を図る	市民公開講座
地域医療学講座	地域医療シンポジウム in ふくろい 「みんなで育む地域医療」	浜松医科大学、静岡県西部保健所、NPO法人ブライツ、f.a.n.地域医療を育む会、御前崎市地域医療を育む会、森町病院友の会、地域医療いわた、菊川市地域医療を守る会		市民：282人	H26.9.20	地域医療の育む取り組みに関する市民への啓発	“地域医療を考える月間”推進事業として、住民・行政・医療者の協働の輪を築くため、地域住民に対して「5つの“か”」活動への参加を呼びかけた
児童青年期精神医学講座	浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座第5回目	精神医学講座・児童青年期精神医学講座	なし	医学生、研修医、小児科医、神科医：67人	H27.1.10～11	医師の育成	不安障害と発達障害
臨床医学教育学講座	第2回「親子で学ぶ医学セミナー」	本学医学科学生　HMST（シミュレーション研究会）		静岡県在住小学生とその保護者15組30人	H26.4.5	医療現場の紹介による、健康・福祉に対する興味の向上等	シミュレータを使った診療ブースを設け、診察や医療行為を児童に経験してもらう
基礎看護学講座	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	基礎看護学講座 三浦克敏	JST	高校生：22人	H26.7.28	高校生が医学や生命科学を体験を通して学ぶ	「感じてみよう体の不思議」をテーマとする、高校生の体験型実習
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	管理監督者メンタルヘルス研修会	浜松労働基準協会		浜松地区の事業場人事労務担当者等：25人	H.26.7.7	事業場におけるメンタルヘルス対策として、管理監督者の役割を学ぶ	管理監督者が小グループでアクティブリスニングを学ぶことによって、事業場のメンタルヘルス対策を推進するできるよう指導
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	平成26年度認知行動療法を取り入れた睡眠に関する保健指導研修会	静岡県健康福祉部（健康増進課・障害福祉課・精神保健福祉センター）		県、市町村、事業場保健師等：52人	H.26.8.4	認知行動療法の視点を取り入れた睡眠保健指導を知り、効果的な保健指導ができるようスキルのレベルアップを図ることにより、うつ病・自殺、生活習慣病の予防を図る	睡眠保健指導について、理論及び認知行動療法視点を取り入れた講義・演習

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	健康ふじ21計画Ⅱ	富士市保健部健康対策課		富士市健康ふじ21計画Ⅱアクションプラン事務局保健師等：20人	H26.10.2	富士市健康ふじ21計画Ⅱの推進を図る	富士市健康ふじ21計画Ⅱアクションプラン実施計画・評価について指導
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	岡崎市地域・職域保健連絡会議及び西三河南部東医療圏地域・職域連携合同研修会	岡崎市保健部健康増進課、西尾保健所総務企画課		圏域事業所の人事担当者、健師等：33人（含事務局）	H27.2.20	事業所と岡崎市、圏域保健所が保健事業に関する情報を共有し、連携して従業員及び岡崎市民の健康づくりの推進を図る	事業所で健康課題となっているメンタルヘルスに関する「睡眠とうつ病」の講演を実施。その後地域・職域連携会議においてメンタルヘルス対策の活動方法について助言指導
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	看護職のための睡眠保健指導セミナー	地域看護学講座公衆衛生看護学		浜松市保健師、浜松市内の事業所保健師：45人	H26.12.22	保健師に必要な保健指導のスキルアップを図る	睡眠の基礎知識及び要因別保健指導について講演をした
地域看護学講座（公衆衛生看護学）	牧之原市自殺予防専門研修会	牧之原市健康福祉部健康推進課		牧之原市保健師、包括支援センター、産業保健師等：20人	H27.3.19	自殺予防を目的に保健指導のスキルアップを図る	自殺予防の一方法として、睡眠障害とうつ病の関連、睡眠保健指導の方法について講義
地域周産期医療学講座	静岡県西部新生児蘇生法講習会	地域周産期医療学講座 大石　彰	本学	静岡県西部の周産期医療関係者：7-22人	H26.5.24、H26.6.14、H26.10.11、H27.3.7	新生児蘇生法の普及	日本周産期・新生児医学会公認の新生児蘇生法講習会を開催
地域周産期医療学講座	静岡県西部新生児蘇生法講習会	地域周産期医療学講座 大石　彰	菊川病院	静岡県西部の周産期医療関係者：16人	H27.2.14	新生児蘇生法の普及	日本周産期・新生児医学会公認の新生児蘇生法講習会を開催
地域周産期医療学講座	静岡県西部新生児症例検討会	地域周産期医療学講座 飯嶋重雄	本学	静岡県西部の周産期医療関係者：15-25人	H26.5.23、H26.6.27、H26.9.26、H26.11.28	静岡県西部の新生児医療関係者への啓蒙	新生児診療上の問題点に関する討論、意見交換
地域周産期医療学講座	静岡県西部新生児症例検討会	地域周産期医療学講座 飯嶋重雄	本学	静岡県西部の周産期医療関係者：15-20人	H27.1.23、H27.2.27、H27.3.27	静岡県西部の新生児医療関係者への啓蒙	新生児診療上の問題点に関する討論、意見交換
地域周産期医療学講座	新生児医療講演会	地域周産期医療学講座 飯嶋重雄	本学	静岡県西部の周産期医療関係者：20-30人	H26.5.9、H26.7.19	静岡県西部の新生児医療関係者への最新知見の普及	新生児医療の最新知見に関する教育講演
メディカルフォトニクス研究センター（分子病態イメージング）	夢・化学-21 高校生のための化学講座	日本化学会東海支部	静岡大学工学部化学バイオ工学科	地域高校生、教員他、100人	H26.12.7	高校生に化学の楽しさを啓蒙する	地域の研究者3名が各自の関連分野を高校生向けに解説した

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
メディカルフォトニクス研究センター（生体機能イメージング研究室）	焼津市医師会学術講演会	焼津医師会	第一三共㈱	20人	H26.11.27	認知症の啓蒙	認知症の診断・薬物治療についての講演
メディカルフォトニクス研究センター（生体機能イメージング研究室）	ホームヘルパー養成研修	浜松市保健所		45人	H26.12.4	ヘルパー養成	難病の教育
子どものこころの発達研究センター	「子どものこころの発達研究」講演会	子どものこころの発達研究センター・浜松センター	特定非営利活動法人　アスペ・エルデの会、浜松市	一般市民、教育関係職員：約250人	H26.4.2	自閉症と発達障害に対する正しい知識の普及	「世界自閉症啓発デー」に併せ自閉症に関する最新のトピックスを講演
子どものこころの発達研究センター	こどもの精神保健フォーラム	浜松医大精神神経科 子どものこころの発達研究センター	静岡市教育委員会 静岡県臨床心理士会等	子どもの精神保健に関係する方：100人	H26.6.29	子どものこころに関する知識を深めると共に、各機関との連携を深める	子どもの精神医学の講演と、それぞれの立場によるシンポジウム
子どものこころの発達研究センター	こどもの精神保健フォーラム	浜松医大精神神経科 子どものこころの発達研究センター	静岡市教育委員会 静岡県臨床心理士会等	子どもの精神保健に関係する方：100人	H26.12. 14	子どものこころに関する知識を深めると共に、各機関との連携を深める	子どもの精神医学の講演と、それぞれの立場によるシンポジウム
第三内科（免疫・リウマチ内科）	静岡リウマチネットワークH26年度第1回市民公開講座	静岡リウマチネットワーク		関節リウマチ患者：200人	H26.6.21	リウマチ知識の普及	講演
第三内科（免疫・リウマチ内科）	静岡リウマチネットワークH26年度第2回市民公開講座	静岡リウマチネットワーク		関節リウマチ患者：200人	H26.11. 15	リウマチ知識の普及	講演
第三内科（免疫・リウマチ内科）	静岡リウマチネットワーク　学術講演会	静岡リウマチネットワーク		医療従事者：50人	H26.7.12	リウマチ知識の普及	講演
第三内科（免疫・リウマチ内科）	静岡リウマチネットワーク　学術講演会	静岡リウマチネットワーク		医療従事者：50人	H26.9.24	リウマチ知識の普及	講演
第三内科（免疫・リウマチ内科）	E-RA in Enshu (Expert-RA care team in Enshu)	E-RA in Enshu（Expert-RA care team in Enshu）		遠州地区でリウマチ診療に従事するコメディカル：10人程度	H26.5～現在	リウマチ知識の普及、ネットワークの構築、専門職教育	主にネットツールによる情報の交換、講演会の案内等
精神科神経科	こころの健康セミナー	精神科神経科	メンタルヘルス岡本記念財団、日本森田療法学会、沼津市、浜松市	70人	H26.11.15	メンタルヘルスの啓発、一般市民への理解普及と社会貢献	森田療法の実際と対応について
小児科	子育てサポーター養成講座での小児疾患に関する講義	藤澤泰子	NPO法人　ころころネット	子育て支援者:30人	H26.9.8	子育て支援者への教育	講義
小児科	学校医部総会講演	浜松市医師会	浜松市医師会会員、県内小中高等学校養護教員	100人	H26.6.28	講習会	講習会「学校管理下における突然死とその予防について」

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
小児科	平成25年袋井市子どもの健康と食を考える会	小児科　福家辰樹	袋井市	栄養士：50人	H26.5.27	県内学校等の保健事業関係者（教師、養護教諭、保母、保健婦など）に対する啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	アレルギー大学	小児科　福家辰樹	NPO法人アレルギー支援ネットワーク	栄養士、調理師、看護師、患者など：50人	H26.6.14	アレルギー疾患を持つ小児に関わりを持つ看護師・栄養士・家族への啓発	あいち小児医療センター監修し東海北陸地方を中心とした教育活動
小児科	静岡県保険医協会西部支部学術研究会	小児科　福家辰樹	静岡県保険医協会	医師/歯科医110人	H26.7.8	アナフィラキシーついて最新の診療を啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	食物アレルギー研修会	小児科　福家辰樹	愛知県丹羽郡扶桑町	学校職員、栄養士：200人	H26.7.9	愛知県東部地区の保健事業関係者（教師、養護教諭、保母、保健婦など）に対する啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	豊田加茂小児科若手の会	小児科　福家辰樹	豊田加茂小児科	医師：20人	H26.7.16	アトピー性皮膚炎の治療法について最新の診療を啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	静岡市子ども未来局子ども未来課	小児科　福家辰樹	静岡市子ども未来局子ども未来課	栄養士：50人	H26.7.17	県内学校等の保健事業関係者（教師、養護教諭、保母、保健婦など）に対する啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	中東遠アレルギー研究会	小児科　福家辰樹	中東遠アレルギー研究会	務医、開業医：20人	H26.10.23	小児のアレルギー診療や治療法について最新情報を啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
小児科	子どものアレルギー・緊急時対応研修会	小児科　福家辰樹	NPO法人アレルギーを考える母の会	学校・園、保育所、学童保育指導員など関係職員：100人	H26.12.12	アレルギー疾患を持つ小児に関わりを持つ家族や関係者	近年対応に変化を求められる小児のアレルギー診療全般について講義
小児科	花粉症学術講演会	小児科　福家辰樹	協和発酵キリン(株)	医師50人	H27.2.14	小児アレルギー疾患の情報を共有し小児科耳鼻科診療連携を図る	浜松市内および近隣の耳鼻咽喉科医に対し小児アレルギー疾患全般について講演
小児科	女性医師支援センター共催小児科勉強会	小児科　福家辰樹	女性医師支援センター共催小児科勉強会	医師：20人	H27.3.21	小児のアレルギー診療や治療法について最新情報を啓発	近年対応に変化を求められる食物アレルギー診療や学校生活での注意点などを講義
第一外科（乳腺外科）	浜松乳がん情報局 第18回市民公開講座	NPO法人がん情報局		一般市民：約200人	H26.8.24	乳がんに関する 正しい知識の普及	基調講演、市民からの質問に対する回答、運営者・司会として参加
第一外科（乳腺外科）	浜松乳がん情報局 第19回市民公開講座	NPO法人がん情報局		一般市民：約200人	H27.2.15	乳がんに関する 正しい知識の普及	基調講演1時間 市民からの質問に対する回答2時間 運営者演者として参加
第一外科（乳腺外科）	静岡県マンモグラフィ講習会	静岡県		技師：50人	H26.12.6	MMG検診推進のための技術指導	講演

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
第一外科（乳腺外科）	浜松市乳癌検診　二次読影	浜松医師会		100例／回の二次読影	H24.4～毎月1回	乳癌の早期発見	2次読影者
第一外科（乳腺外科）	静岡県デジタルマンモグラフィ研修会	静岡県		医師：10人 技師：60人	H27.2.8	MMG検診野ためのデジタルマンモグラフィの研修および読影技術指導	講演及びグループ講習講師
第一外科（乳腺外科）	看護フォーラム21	NPO法人がん情報局		看護師：40人	H26.7.26	看護師への指導	講演
第一外科（乳腺外科）	東海がんプロフェッショナル養成講座	東海がんプロフェッショナル養成プログラム		医師、薬剤師：50人	H26.7.27	コメディカルへの指導	講演
第一外科（呼吸器外科）	肺癌検診従事者講習会	浜松市医師会		約100人	H26.10.10	地域医療従事者への専門研修、教育活動	肺がん検診精査症例についての講演
第一外科（呼吸器外科）	浜松市肺癌検診　二次読影	浜松市医師会		200人／回の二次読影	H26.4～毎月2回	肺癌の早期発見	開業医が一次読影した胸部X線フィルムを医師会読影室において、ダブルチェックの二次読影を行う。
第一外科（呼吸器外科）	藤枝東高校模擬講義	藤枝東高校		藤枝東高等学校2年生	H26.10.16	高校生の啓蒙、動機づけ	高校生への模擬講義
第一外科（心臓血管外科）	国保診療報酬審査委員会	静岡県国保連合会		約8.000人／月	毎月1-2回	医療費の適正使用	
第一外科（一般外科）	国保診療報酬審査委員会	静岡県国保連合会		約8.000人／月	毎月1-2回	医療費の適正使用	
第一外科（一般外科）	浜松市胃癌検診　二次読影	浜松市医師会		70人／回の二次読影	毎月1-2回	胃癌の早期発見	
第一外科	富士宮市救急医療センター	富士宮市			月11日程度	地域救急医療体制確保	
第一外科	御殿場市救急医療センター	御殿場市			月23日程度	地域救急医療体制確保	
第一外科	掛川医療センター	掛川市			月2日	地域救急医療体制確保	
第一外科、第二外科、シミュレーションセンター	ふじのくに　こころざし育成セミナー	静岡県		高校1・2年生：68人	H26.8.6	医学部（医学科）進学を目指す生徒に対し、医師を目指すことの意義について再認識させ、将来の本県の医療を支える人材の育成する	医師による講話（医療関係者との質疑応答）、施設見学、模擬体験
皮膚科	遠州皮膚科医会	皮膚科学講座	浜松市内の皮膚科開業医	50人	H26.4.1～H27.3.31	地域医療連携	地域開業医との勉強会および医療連携

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者:人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
泌尿器科	腎移植という選択in浜松	浜松医科大学泌尿器科学講座	静岡県腎友会、静岡県泌尿器科医会、ノバルティスファーマ（株）、（財）静岡県腎臓バンク	浜松市民を中心とした静岡県民:100人	H26.4.20	腎不全の治療選択について学んでいただくための公開講座	講師による講演、参加者からの質問に対する解説他
泌尿器科	前立腺市民公開講座	浜松医科大学泌尿器科学講座	旭化成ファーマ株式会社、アステラス製薬株式会社、アストラゼネカ株式会社、武田薬品工業株式会社、浜北医師会、浜松医師会、浜松市、静岡県泌尿器科医会	浜松市民:300人	H27.2.8	最新の前立腺検診・肥大症・癌情報を提供することで前立腺疾患治療に貢献する	講師による講演、参加者からの質問に対する解説他
耳鼻咽喉科	耳の日市民公開講座	日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会	同左	一般人:130人	H27.2.28	啓蒙活動	講演 「耳鼻のどの病気」 「高齢者のめまいと耳鳴りの治療」
放射線科	地域医療支援	浜松市			通年	佐久間病院の支援	佐久間病院から依頼のあったCT検査、MRI検査の読影
放射線科	遠州病院市民公開講座	遠州病院		地元住民:約100人	H26.11.15	地元住民への教育活動	公開講座「知っておきたい放射線治療のはなし」
形成外科（藤原雅雄）	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業・浜松/東三河ライフフォトニクスイノベーション事業	浜松商工会議所・浜松医工連携研究会	浜松商工会議所	浜松商工会議所、研究協力係:40人	2014.12.10	医療・介護現場との情報交換会	浜松商工会議所の方々に医療現場についての講演会
形成外科（藤原雅雄）	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業・浜松/東三河ライフフォトニクスイノベーション事業	浜松商工会議所・浜松医工連携研究会	浜松商工会議所	浜松商工会議所、研究協力係:15人	2015.1.14	医療・介護現場との情報交換会	浜松商工会議所の方々に院内説明会（外来・病棟・手術室）
検査部	静岡県臨床検査データ標準化	静岡県臨床検査技師会		地域病院検査部	H26.4～H27.3	静岡県内病院の臨床検査の標準化	基幹病院として、検体を測定、また、委員として参加
検査部	平成26年度　精度管理調査	浜松市保健所		地域病院検査部:約500人	H26.8.19	浜松市内病院の臨床検査の標準化	基幹病院として、検体を測定
検査部	平成26年度　臨床検査精度管理調査	静岡県医師会		地域病院検査部	H26.12.14	静岡県内病院の臨床検査の標準化	調査に参加、運営委員および評価者として参加
材料部	産学連携評価モデル 拠点モデル実証事業	ローランドDG社	経済産業省	38人	H26.12.12、H27.1.16、H27.2.20、H27.3.26	はままつ医工連携拠点の活動	医工連携、地域連携を共同開発で実証

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
材料部	県西部病院材料部連絡協議会	浜松医科大学附属病院（幹事）、遠州病院、聖隷浜松病院，聖隷三方原病院、天竜病院、浜松医療センター、浜松赤十字病院、浜松労災病院、浜松市リハビリテーション病院、佐久間病院、丸山病院、浜松北病院、松田病院、すずかけセントラル病院、浜松南病院、協立十全病院、市立湖西病院、浜名病院	浜松市健康福祉部、静岡県西部健康福祉センター、静岡県地域医療課・薬事課、湖西市健康増進課	地域住民全体（協議会メンバー）：23人	H26.4.21、H26.7.15、H26.7.28、H27.1.16	静岡県西部地域の医療機関の材料部が相互に連携し情報を共有する	災害時における地域材料部の協力体制の構築、情報伝達シミュレーションの実施
材料部	特別基礎講座CSSセミナー	浜松医科大学附属病院、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、中東遠総合医療センター、静岡県立こども病院、サクラ精機(株)、クリーンケミカル	静岡県中材業務研究会、日本医療機器学会	滅菌技師・士：17人	H26.11.22	滅菌技師・士が知識や技術の研鑚を積むこと	材料部の業務をテーマとする基礎講座で、滅菌技師・士を対象とする講義及び施設見学
血液浄化療法部	腎臓を守って健康寿命No.1	浜松医科大学腎臓内科	ファイザー株式会社	一般市民：200人	H27.2.11	CKDの啓発	患者向けの講演
血液浄化療法部	第22回浜松市民アカデミー	浜松市中区役所まちづくり推進課	県西部8大学	社会人：80人	H26.10.1	最新の情報と知識と知恵を分かりやすく解説する	健康寿命を延ばすための食事・運動療法を解説
血液浄化療法部	フード・デリメディケアフーズショー	フーズ・デリ	静岡県栄養士会	管理栄養士：100人	H26.4.12	管理栄養士の啓発	CKD患者の食事・栄養療法について解説
血液浄化療法部	浜松市内科医会　10月例会	浜松医内科医会		内科開業医：50人	H26.10.15	CKD診療の啓発	食事・栄養療法の現状について解説
血液浄化療法部	西部地区健康づくり推進研究会	静岡県栄養士会		西部地区の栄養士：50人	H26.9.12	管理栄養士の教育・啓発活動	腎臓の機能と疾患について概説
血液浄化療法部	御殿場内科医会勉強会	御殿場内科医会		御殿場医師会に所属する内科医：20人	H26.9.26	CKD診療の啓発	高血圧治療の最前線について講演
臨床研究管理センター	西武CRCの会	浜松医科大学	とおとうみ臨床試験ネットワーク	41人	H26.7.26	CRCの情報共有・スキルアップ	年2回程度持ち回りで研究会を開催してディスカッションを行う
臨床研究管理センター	西武CRCの会	浜松医科大学	とおとうみ臨床試験ネットワーク	43人	H27.2.7	CRCの情報共有・スキルアップ	年2回程度持ち回りで研究会を開催してディスカッションを行う

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
臨床研修センター	地域医療支援	ふじのくに地域医療支援センター	静岡県	医学生、医師	通年	地域医療支援	県内への医師確保、医師のキャリア形成支援
臨床研修センター	臨床研修指導医講習会	浜松医科大学医学部附属病院臨床研修センター	本院の協力型臨床研修病院	研修医の指導にあたる医師：41人（学内26人、学外15人）	H26.11.8～11.9	臨床研修の指導医養成	指導医の資質向上及び臨床研修を行う病院・施設における適切な指導体制の確保を目的として厚労省指針に基づき2日間開催
腫瘍センター	静岡がん治療フォーラム	腫瘍センター		院内外の医療従事者：37人	H26.10.10	研修会	教育講演及び特別講演を実施。がん治療の現状と課題等を医療スタッフに報告する研修会
腫瘍センター	がん診療連携拠点病院　市民公開講座	腫瘍センター	西部医療圏がん診療連携病院・浜松市	浜松市北遠地域の住民：43人	H26.10.25	市民公開講座	山間部等の公開講座の開催が少ない地域に向けて医療の基礎知識の啓発活動
腫瘍センター	がん医療従事者研修会	腫瘍センター	浜松市歯科医師会、浜松市医師会	歯科医師を中心とした医療従事者：55人	H26.12.15	研修会	医科歯科連携による口腔ケア推進のための研修会
腫瘍センター	がん医療従事者研修会	腫瘍センター	浜松赤十字病院、浜松市浜北医師会	医師を中心とした医療従事者:13人	H27.2.13	研修会	医科歯科連携による口腔ケア推進のための研修会
腫瘍センター	緩和ケア研修会	腫瘍センター	西部医療圏がん診療連携病院、引佐郡医師会、磐周医師会、浜松市浜北医師会、浜名医師会、浜松市医師会	がん診療に携わる医師：15人	H27.2.21～2.22	研修会	緩和ケアの講義・ロールプレイ・事例検討を通じて緩和ケアの理解・知識・技術の習得
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業　静岡県西部地区B型肝炎セミナー	本学医学部附属病院、ブリストル・マイヤーズ株式会社		医療者：50人	H26.6.27	肝炎医療の治療水準の向上と均てん化、正しい知識の普及啓発を目的とした医療者向け研修会	講演 「B型肝炎の最新治療」 「肝炎の現況を踏まえて」 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 消化器・代謝内科学教授 茶山 一彰
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業　市民公開講座	本学医学部附属病院、浜松市、静岡県西部保健所	浜松かんゆう会	一般市民：50人	H26.7.26	一般市民への肝炎医療の正しい知識の普及啓発	『もっと知ろう！肝臓病』 講演「C型肝炎の最新治療～C型肝炎は治る時代に～」 肝臓内科診療科長 小林 良正
肝疾患連携相談室	患者サロン「ガーベラの会」	本学医学部附属病院、浜松市、静岡県西部保健所	浜松かんゆう会	患者やその家族など：17人	H26.7.26	患者やその家族など、同じ立場の人が気軽に悩みや体験を語り合う交流の場	疾病や治療体験談や日常生活などを語り合うグールプワーク

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業　市民公開講座	本学医学部附属病院、岡県中部保健所		一般市民：31人	H26.11.1	一般市民への肝炎医療の正しい知識の普及啓発	『もっと知ろう！肝臓病』 講演 「あなたの肝臓は大丈夫？～ウイルス性慢性肝炎の診断と治療～」 肝臓内科診療科長 小林 良正 「肝臓病手帳を使ってみよう!!」肝疾患連携相談室　増田順子
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業　市民公開講座	本学医学部附属病院、静岡県西部保健所	浜松かんゆう会	一般市民：72人	H26.11.29	一般市民への肝炎医療の正しい知識の普及啓発	『もっと知ろう！肝臓病』　講演 「肝臓にやさしい食事とは？～肝炎・肝硬変の食事療法～」 栄養部副部長 渡邉 潤
肝疾患連携相談室	患者サロン「ガーベラの会」	本学医学部附属病院、静岡県西部保健所	浜松かんゆう会	患者やその家族など：35人	H26.11.29	患者やその家族など、同じ立場の人が気軽に悩みや体験を語り合う交流の場	疾病や治療体験談や日常生活などを語り合うグールプワーク
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業、肝疾患かかりつけ医研修会、静岡県西部地区C型慢性肝炎セミナー	本学医学部附属病院、静岡県疾病対策課、中外製薬株式会社	順天堂大学医学部附属静岡病院	43人	H25.12.3	「肝疾患かかりつけ医」へ登録した登録医向け研修会 肝炎医療の治療水準の向上と均てん化、正しい知識の普及啓発を目的とした医療者向け研修会	講演1 「静岡県肝炎対策推進計画」静岡県健康福祉部医療健康局・疾病対策課長 奈良 雅文 講演2 「DAAs時代のC型肝炎治療戦略」 大阪大学大学院医学系研究科・消化器内科学講師 平松 直樹
肝疾患連携相談室	静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業、静岡県西部地区C型慢性肝炎セミナー	本学医学部附属病院、中外製薬株式会社		医療者:56人	H25.12.3	肝炎医療の治療水準の向上と均てん化、正しい知識の普及啓発を目的とした医療者向け研修会	講演 「DAAs時代のC型肝炎治療戦略」 大阪大学大学院医学系研究科・消化器内科学講師 平松 直樹
感染対策室	平成26年度 浜松地区 感染対策地域連携を考える会	浜松医科大学医学部附属病院感染対策室	浜松地区感染防止対策加算1・2算定施設、保健所など	医療従事者・保健所職員　66人	H27.2.4	浜松地区の感染防止対策地域連携の推進	浜松地区の感染防止対策地域連携の活動報告及び情報交換
感染対策室	SBSラジオ サンデークリニック「インフルエンザの季節が始まりました」	浜松医科大学医学部附属病院感染対策室	SBSラジオ	地域住民	H26.11.2	感染症・感染対策に関する情報提供	インフルエンザの一般的知識、治療、予防方法などについて解説
感染対策室	「結核の院内感染対策～医療スタッフが感染しないために～」	浜松医科大学医学部附属病院感染対策室	浜松北病院	全職員対象:50人	H26.10.10	感染対策講習会	浜松北病院全職員を対象とした感染対策講習会
看護部	高校生1日ナース体験事業	看護部	静岡県看護協会	高校生:30人	H26.8.1	多くの高校生に看護・医療に対する関心を高め看護の道に進んでもらうため実際の医療施設で看護師の仕事を体験してもらう	地域の高校生が、看護師とともに行動し看護業務を見学体験することで、将来の職業選択に活かす
看護部	浜松医科大学医学部附属病院看護部新人看護職員研修	看護部	静岡県健康福祉部地域医療課	院外新人看護職員：延べ25人	H26.6.23、H26.9.30、H26.12.4、H27.3.4	新人看護職員、保健師、助産師が提供する看護の質の向上並びに新人看護職員等の早期離職防止を図るため	当院の新人看護師とともに他施設の新人看護職員がシミュレーションなどの研修を通して基本的な看護ケアを習得する

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者:人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
看護部	公開研修会 「看護研究の基礎　研究計画書を書きあげる！！」	看護部、臨床看護学講座（成人看護）教授　森恵子		院内外看護職:94人	H26.6.12	看護職の臨床研修等の努力義務化（2010年）をふまえ、継続教育の充実を目指す、大学病院として教育の機会として地域の看護師に対して貢献する。静岡県の看護職員の研修の機会の拡大を図り資質の向上に資するため	地域の看護職にも参加して頂き、看護実践に活かす看護研究の意義と研究計画書を立てるまでのプロセスについて理解を深める
看護部	公開研修会 「抗がん剤の曝露って何だろう？」 「緩和ケアの基礎知識と考え方について	看護部専門看護師・認定看護師連絡会		院内外看護職:105人	H26.8.29		地域の看護職にも参加して頂き、がん化学療法看護認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師　による研修により、看護ケアの知識の向上を図る取組み
看護部	看護倫理について	看護部、基礎看護学講座教授　片山はるみ		院内外看護職:134人	H26.9.24		地域の看護職にも参加して頂き、看護師の倫理綱領、患者の権利、倫理原則についての理解を深める取組み
看護部	公開研修会 「慢性疾患とともに生活する患者と家族を支える患者理解」 「高次脳機能障害患者の理解と支援」	看護部、専門看護師・認定看護師連絡会		院内外看護職:94人	H26.10.31		地域の看護職にも参加して頂き、慢性疾患看護専門看護師　脳卒中リハビリテーション看護認定看護師による研修により、看護ケアの知識の向上を図る取組み
看護部	新看護提供体制研修「PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）研修」	看護部		他施設看護職:延べ28人	H26.9～H27.3（計5回）	看護提供体制としてPNS導入を検討している施設に対し基本的な情報提供と見学研修	PNSの基本と実際についての講義および PNSを実践している病棟の見学と意見交換（2日間研修）
看護部	CVポートに必要な専門知識	看護部		院内医師、看護職員、院外施設看護職員および訪問看護ステーション看護師:46人	H27.1.17	CVポートの知識・取扱について学び安全な治療・ケアの実践につなげる	地域の看護職にも参加して頂き、CVポートに必要な専門知識・技術の習得
看護部	浜松医科大学看護部主催看護研究・実践報告会	看護部		院内外看護職:延べ433人	H27.2.21	院内の看護研究等の成果について情報交換し共有することで更なる看護の質の向上に繋げる	地域の看護職にも参加して頂き、看護研究5題・実践報告会24題示説、シンポジウム「PNS体制の定着に向けて」を実施し情報共有や意見交換を行う
看護部	まちの保健室	静岡県看護協会西部地区支部　医大看護師1名派遣		地域住民:約30人	H26.7.16	地域住民のニーズに対応した看護に関する事業	血圧測定・体脂肪測定・健康相談等
看護部	看護教室	静岡県看護協会西部地区支部　医大看護師1名派遣		地域住民:約30人	H26.11.29	地域住民のニーズに対応した看護に関する事業	「誤嚥性肺炎の予防」の企画、運営
知財活用推進本部	ビジネスマッチングはままつ2014	浜松信用金庫　法人営業部　地域活性課	浜松商工会議所、浜松信用金庫、遠州信用金庫はましん経営塾、東海地区しんきん経営者協議会	企業一般:8000人	H26.7.23～7.24	地域経済の活性化推進	地域企業や大学・支援機関の販路拡大・受注確保・業務提携・産学連携を支援

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
知財活用推進本部	メディカルメッセ	名古屋商工会議所 産業振興部 モノづくり・新産業グループ	名古屋商工会議所 産業振興部 モノづくり・新産業グループ	企業一般：1800人	H27.2.16	新たな医療機器の創出	医療機器メーカーと医療現場、モノづくり企業が、それぞれの医療ニーズと技術シーズの展示商談を通じて、新たな医療機器の創出を目指す
医事課	富士山衛生センター（富士宮口八合目）開設に伴う医師等の派遣	浜松医科大学医学部附属病院第一内科、第二内科、第三内科の医員・大学院生、学部学生	富士宮市	富士山登山者	H26.7.25～H25.8.18	登山者の医療救護	急病者の診療
医事課	地域がん診療連携拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院がん相談支援室	静岡県等	患者、家族	通年	相談業務	がんに係る医療・福祉相談
医事課	日本赤十字社血液事業支援	病院		静岡県日本赤十字血液センター浜松事業所	通年	地域医療支援	献血検診医の派遣（述べ100人の医師を派遣するための調整）
医事課	ドクターヘリ及び防災ヘリ等の受入	浜松医科大学医学部附属病院救急部	静岡県等	救急患者等	通年	救急	救急患者移送
医事課	肝疾患診療連携拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院肝疾患相談支援室	静岡県等	患者、家族	通年	相談業務	肝疾患に係る医療・福祉相談
医事課	開放型図書室	浜松医科大学医学部附属病院図書室	医療関係者	一般市民	通年	情報提供	一般市民に開放、書籍の受入から貸出は随時対応、パンフレットも設置
医事課	障害年金相談会	医療福祉支援センター	静岡県社会保険労務士会	患者、家族	年4回	相談業務	
医事課	退院支援	医療福祉支援センター	訪問診療医・訪問看護ステーション他	患者、家族	通年	在宅医療支援	医療依存度の高い患者を在宅に戻す連携業務
学務課	平成２６年度国際交流のつどい	浜松医科大学		外国人留学生・研究者、国際交流事業関係者、地域関係者、本学役員・教職員・学生：86人（当日出席者数）	H27.3.2	外国人留学生・研究者と教職員、国際交流事業関係者、国際交流後援者及び地域関係者等との交流・交歓を図り、本学への日頃の支援に対する感謝の意を表すとともに国際交流の推進に資する	立食形式による懇親パーティ（今年度渡日した新入留学生の歓迎会及び3月に卒業・修了する留学生の送別会を兼ねる）
学務課	専門基礎科目・専門科目等大学授業開放	浜松医科大学		県内の高校2～3年生：延べ392人	H26.6.9～6.20	医師、医学研究者又は看護専門職を希望している高校生の学習へのモチベーションと本学への関心を高める	医学科、看護学科で開講している授業に参加し、大学授業を体験する

平成26年度地域貢献活動状況一覧

部署名	事　業　名	活動主体	連携団体等	対象者：人数	実施期間（年月日）	事業の目的	事業の概要又は内容
学務課	浜松医科大学公開講座	浜松医科大学		社会人、学生：137人	H26.7.19、H26.8.2、H26.8.9	「開かれた大学」として教育・研究の成果を広く社会に公開し、地域住民との間に率直な意見交換の場を設け、あわせて地域文化の発展に寄与することを目的とする	「健康のために知っておきたい話−医療における最新の話題−」をテーマとして6講座を開催
学術情報課	静岡県医療機関図書室連絡会；定例会及び研修会	学術情報課	静岡県内医療機関	38医療機関	H26.6.12、H26.11.27	医療機関図書室機能及び職員の資質向上を図り、地域医療に貢献する	医療機関図書室の運営に係る情報の交換、相互協力、研修会の開催
学術情報課	医療専門学校生を対象とした文献検索講習会	学術情報課	静岡医療科学専門学校	38人	H26.11.13	文献検索の講習により、医療に貢献し得る人材育成を補助する	医療系データベース検索の講習により、有効な文献の探し方を習得する
学術情報課	附属図書館の一般市民開放と地域医療従事者へのサービス提供	学術情報課		年間利用延人数 3,031人	H26.4.1～H27.3.31	図書館を一般市民及び地域医療従事者に開放し、学習又は研究・調査を支援する	一般市民及び地域医療従事者に附属図書館の資料の閲覧及びレファレンスサービスを提供する

平成27年度　各種委員会委員名簿

平成27年4月13日現在

委員会	図書館運営委員会	保健管理センター運営委員会	ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ研究センター運営委員会	動物実験委員会	動物実験施設運営委員会	実験実習機器センター運営委員会	安全衛生委員会	環境マネジメント委員会	情報基盤センター運営委員会
委員長	針山図書館長	宮嶋センター長	蓑島センター長	渡邉(裕)施設長		福田センター長	鈴木(修)理事	鈴木(修)理事	谷センター長
学長特別補佐 副学長 学長・理事		鈴木(修)理事					今野副学長		針山副学長
総合・基礎	古屋教授 笹倉教授 中安教授	田中准教授	針山教授			黒野准教授			谷教授
総合・基礎	尾内教授 小杉准教授	福田教授		鈴木(哲)教授 鈴木(優)准教授		浦野教授			岩城准教授
臨床・病院	難波教授 福田准教授 乾准教授	加藤(文)教授 伊東准教授	海野准教授	森教授 深水准教授		林教授 鈴木(勝)准教授			大園教授
看護	安田教授 鈴木(み)教授	巽教授		渡邊(泰)教授		三浦(克)教授			千々岩准教授
その他	事務局次長(教育) 学術情報課長	学生委員会委員長 大学院博士課程部会長 ※△榎本講師 事務局次長(総務) 事務局次長(教育) 保健師 人事課(保健)	(ｾﾝﾀｰの教授・准教授) 間賀田教授 山本教授 尾内教授 瀬藤教授 星教授 岡崎特任教授 矢尾准教授	加藤(秀)准教授 森下教授 飼育技術者　高林助教 (学外の学識経験者)1名 早川敦子	加藤(秀)准教授 森下教授	(機器ｾﾝﾀｰの准教授) 内田准教授 各室等の責任者の代表4名 丹伊田准教授 早乙女助教 河崎助教 記野助教 技術職員の代表1名	安全衛生責任者 衛生管理者 衛生工学衛生管理者 保健管理センター長 産業医 保健師 検査部長 病理部長 薬剤部長 看護部長 情報医学講座教授 事務局次長(総務・病院) 事務局次長(教育) 人事課長 施設課長 職員過半数代表者委員会	医療廃棄物処理センター長 施設マネジメント専門委員会委員長 学生委員会委員長 省エネルギー推進専門部会長 事務局次長(総務) 事務局次長(病院) 事務局次長(教育) 施設課長	内田准教授(副センター長) 西尾ﾈｯﾄﾜｰｸ部会長 情報企画室長 学術情報課長 野末技術専門職員
任期	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	1年:～28.3.31	1年:～28.3.31	1年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31
庶務	学術情報課	人事課	研究協力課	研究協力課	研究協力課	研究協力課	安全衛生管理センター	施設課	情報企画室
備考		※放射線健康管理医 △保健管理ｾﾝﾀｰ専任教員		その他の委員以外は同メンバー			役職指定	役職指定	

平成27年度　各種委員会委員名簿

平成27年4月13日現在

委員会	情報公開・個人情報保護委員会	国際交流委員会	医の倫理委員会	組換えDNA実験安全委員会	ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会	バイオセーフティ委員会	研究推進委員会	技術部運営委員会
委員長	針山副学長	小出理事	戸倉教授	丹伊田准教授	椙村教授	鈴木(哲)教授	蓑島副学長	福田技術部長
副学長・理事 学長特別補佐		蓑島副学長	蓑島副学長	蓑島副学長	蓑島副学長	蓑島副学長		
総合・基礎	大磯教授	Kuramoto准教授	森下教授 大磯教授 西尾准教授	大磯教授 妹尾准教授	森下教授	妹尾准教授	谷教授	西尾准教授
総合・基礎	瀬藤教授 池上准教授	佐藤(康)教授	尾内教授 武井教授	浦野教授 丹伊田准教授 矢尾准教授	椙村教授 内田准教授	堀井教授 内田准教授	北川教授　尾内教授 福田教授　浦野教授 山本教授　瀬藤教授 間賀田教授　星教授 矢尾准教授	渡部(加)教授
臨床・病院	加藤(文)教授 木村教授 船井准教授	峯田教授	戸倉教授 麻酔・蘇生学講座教授(予定) 前川教授		緒方教授 竹下准教授		宮嶋教授 森教授 堀田教授 緒方教授	栗田准教授
看護	鈴木(み)教授	森(恵)教授	三浦(克)教授 鈴木(み)教授		佐藤(直)教授		三浦(克)教授	山下助教
その他	谷情報基盤センター長 総務課長	国際交流会館主事 事務局長 事務局次長(総務) 事務局次長(教育)	(学長が必要と認めた学内又は学外者) 若干名 鈴木敏弘(弁護士) 野口基子 山口智之(浜松市医師会長) 佐藤清昭 本間徳子	鈴木(哲)教授(安全主任者) 前川教授(副安全主任者) 産業医等 (学長が必要と認めた者) 加藤(秀)准教授 (学外の学識経験者)　3名 酒井則良 加藤幹男 林卓司	(個人情報管理者) 木村教授 (学外の学識経験者)　8名 清水貴子、野田直剛 常吉俊宏、岡本　肇 近藤真司、河崎グロリア	動物実験委員会委員長 組換えDNA実験安全委員会委員長 医療廃棄物処理センター運営委員会委員長 加藤(秀)准教授	事務局次長(総務)	動物実験施設長 医療廃棄物処理センター長 (機器センターの准教授) 事務局次長(総務) 副技術部長
任期	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31	2年:～28.3.31
庶務	総務課	学務課	研究協力課	研究協力課	研究協力課	研究協力課	研究協力課	人事課
備考						役職指定	研究推進企画室と同メンバー	

平成27年度　各種委員会委員名簿

平成27年4月13日現在

委員会	ハラスメント防止等対策委員会	広報委員会	防災委員会	放射線安全委員会	大学院博士課程部会	大学院修士課程部会	入学者選抜方法研究委員会	学生委員会	教務委員会	施設マネジメント専門委員会
委員長	鈴木(修)理事	山本学長特別補佐	鈴木(修)理事	鈴木(修)理事	北川教授	森(恵)教授	小出理事	岩下教授	梅村教授	前田理事
学長特別補佐・副学長・理事	小出理事 前田理事 今野副学長	針山副学長			小出理事	小出理事		小出理事	小出理事 宮嶋学長特別補佐	今野副学長
総合・基礎	田中准教授	西尾准教授	古屋教授 田中准教授				古屋教授 笹倉教授 中安教授 谷教授 黒野准教授	笹倉教授 Kuramoto准教授	田中准教授 藤本教授	大磯教授
	鈴木(優)准教授	尾島教授 石井准教授	中村准教授	間賀田教授※	北川教授 椙村教授 山本教授 福田教授		尾島教授	岩下教授 秋田准教授	梅村教授 新村准教授	瀬藤教授
臨床・病院	佐藤(美)准教授	林教授 川上教授 杉山准教授	吉野教授 杉本准教授	阪原教授※ 竹原准教授 山下講師	難波教授 大園教授 阪原教授 吉野教授		椎谷教授 峯田教授 杉原准教授	阪原教授 峯田教授	難波教授 渡邉(裕)教授	堀田教授
看護	渡邊(泰)教授	鈴木(み)教授	鈴木(美)准教授 倉田講師			三浦(克)教授 永田教授 森(恵)教授 安田教授 巽教授 武田教授	渡邊(泰)教授	巽教授 菅野准教授	永田教授 佐藤(直)教授	渡邊(泰)教授
その他	事務局次長(総務) 事務局次長(教育) 看護部長	谷情報基盤センター長 事務局次長(教育) 総務課長 学術情報課長	救急部長 事務局長 看護部長 事務局次長(総務) 防災防火管理者	※宮田技術専門職員 ※鈴木技術職員 ※竹田放射線部技師長 実験実習機器ｾﾝﾀｰ長 △放射線健康管理医 人事課課長補佐 施設課課長補佐	事務局次長(教育) 学務課長	事務局次長(教育) 学務課長	事務局次長(教育) 入試課長	榎本講師(保健ｾﾝﾀｰ) 事務局次長(教育) 学務課長	事務局次長(教育) 学務課長	事務局次長(総務) 事務局次長(病院) 事務局次長(教育) 施設課長
任期	2年：～28.3.31	2年：～28.3.31	2年：～28.3.31	任期なし：役職指定	2年：～28.3.31 ～29.3.31	2年：～28.3.31	1年：～28.3.31	2年：～28.3.31 ～29.3.31	2年：～28.3.31 ～29.3.31	2年：～28.3.31
庶務	人事課	総務課	総務課	総務課	学務課	学務課	入試課	学務課	学務課	施設課
備考				※放射線主任・副主任 △放射線健康管理医	毎年、半数改選			毎年、半数改選	毎年、半数改選	

国立大学法人浜松医科大学管理運営組織

平成27年4月1日現在

学長選考会議

学長　中村　達
役員会

学長付企画推進室
監査室
広報室

監事　西山　仁
津田　紘

教育研究評議会
経営協議会

総合企画会議

☆ 総合企画会議は企画室間の連絡・調整を行う会議で意思決定の機関ではない

〔 ＊は教育研究評議会評議員〕

理事　小出幸夫《教育・国際交流》 — 教育企画室

企画室構成員
梅村和夫教授(医学教育推進センター長) ＊
岩下寿秀教授(再生・感染病理学)
北川雅敏教授(分子生物学)
森恵子教授(臨床看護)
永田年教授(基礎看護) ＊
古谷淳教授(数学)
笹倉裕之教授(物理学) ＊
中安美奈子教授(英語)
宮嶋裕明教授(内科学第一)＊
五十嵐寛特任准教授(臨床医学教育学)
山中和之次長(教育・国際交流担当)
大森達郎総務課長
大木清造学務課長
太田正人入試課長

《連絡調整担当課》 学務課

企画室所掌事項
教育・学生関係予算の立案・執行
教育方針の策定
教育の評価・改善
入学試験
国際交流

関係課・関連委員会等
【 総務課 】
教授会①
【 学務課 】
大学院修士課程教授会②
大学院博士課程教授会③
②大学院修士課程部会
③大学院博士課程部会
①学生委員会
①教務委員会
国際交流委員会
助産学専攻科委員会
がんﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ育成委員会
医学教育推進ｾﾝﾀｰ運営委員会
【 入試課 】
入学試験委員会
入学者選抜方法研究委員会

副学長　針山孝彦《情報・図書館》【図書館長】 — 情報・広報企画室

笹倉裕之教授(物理学)＊
大磯義一郎教授(法学)
梅村和夫教授(薬理学) ＊
難波宏樹教授(脳神経外科学)
加藤孝澄准教授(麻酔・蘇生学)
片山はるみ教授(基礎看護学)
森恵子教授(臨床看護学)
谷重喜教授(情報基盤センター・情報医学)
木村通男教授(医療情報部)
山本清二教授(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ)
内田千晴准教授(機器センター)
長谷川篤志次長(総務担当)
山中和之次長(教育・国際交流担当)

《連絡調整担当課》 学術情報課

企画室所掌事項
情報関係予算の立案・執行
広報
情報基盤
情報セキュリティ管理
情報公開
個人情報保護

【 学術情報課 】
図書館運営委員会
【 総務課 】
広報委員会
情報公開・個人情報保護委員会
【 情報企画室 】
情報基盤ｾﾝﾀｰ運営委員会

理事　前田　広《財務》【事務局長】 — 総務企画室

長谷川篤志次長(総務担当)
山中和之次長(教育・国際交流担当)
大森達郎総務課長
葛山雅弘研究協力課長
大谷理恵人事課長
坂本和浩会計課長
向井和人施設課長

《連絡調整担当課》 総務課

企画室所掌事項
大学改革
法人運営
危機管理
訴訟

【 総務課 】
危機管理会議
将来構想検討委員会④
防災委員会

副学長　蓑島伸生《研究》 — 研究推進企画室

谷重喜教授(情報医学)
瀬藤光利教授(解剖学)
福田敦夫教授(神経生理学) ＊
浦野哲盟教授(医生理学)＊
北川雅敏教授(分子生物学)
宮嶋裕明教授(内科学第一) ＊
森則夫教授(精神医学)
堀田喜裕教授(眼科学)
緒方勤教授(小児科学)
三浦克敏教授(基礎看護)
山本清二教授(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ)
間賀田泰寛教授(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ)
尾内康臣教授(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ)
星詳子教授(メディカルフォトニクス)
矢尾育子准教授(メディカルフォトニクス)
事務職員

《連絡調整担当課》 研究協力課

企画室所掌事項
研究関係予算の立案・執行
産学連携推進
プロジェクト研究
知的財産
COE
研究推進

【 研究協力課 】
知財活用推進会議
(発明委員会)
医の倫理委員会
組換えDNA実験安全委員会
動物実験委員会
ﾊﾞｲｵｾｰﾌﾃｨ委員会
ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ研究ｾﾝﾀｰ運営委員会
実験実習機器センター運営委員会
動物実験施設運営委員会
研究推進委員会
ﾋﾄｹﾞﾉﾑ・遺伝子解析研究倫理審査委員会
利益相反ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会
ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ委員会
産学官共同研究センター運営会議

理事　前田　広《財務》【事務局長】 — 経営企画室

書馬明理事
今野弘之副学長
長谷川篤志次長(総務担当)
渡邉裕司教授(臨床薬理学) ＊

《連絡調整担当課》 会計課

企画室所掌事項
概算要求
予算の立案・執行・決算
管理費の執行
資産の運用・管理
外部資金導入
施設マネジメント

【 会計課 】
資金管理委員会
【 施設課 】
④施設ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専門委員会⑤
⑤省ｴﾈﾙｷﾞｰ推進専門部会

以下病院運営企画室所掌
【 病院経営支援課 】
物流管理委員会
薬剤管理委員会
【臨床研究管理センター】
治験審査委員会
【 人事課 】
看護委員会
臨床研修管理委員会
【 施設課 】
医療ｶﾞｽ安全管理委員会

副学長　今野弘之《病院》【病院長】 — 病院運営企画室

須田隆文副病院長
金山尚裕副病院長
松山幸弘副病院長
鈴木美恵子副病院長
林　秀晴主任科長(第三内科)
戸倉新樹科長(皮膚科)
阪原晴海科長(放射線科)
椎谷紀彦主任科長(第一外科)
堀田喜裕科長(眼科)
大園誠一郎科長(泌尿器科)
前川真人部長(検査部)
木村通男部長(医療情報部)
小林利彦センター長(医療福祉支援センター)
長谷川篤志次長(総務担当)

《連絡調整担当課》 医事課

企画室所掌事項
病院予算の立案・執行
病院運営・経営改善
先進医療
病院の将来構想・再開発
地域連携(病・病連携、病・診連携)

【 医事課 】
診療科長・中央診療施設等部長会議
遺伝子診療部運営委員会
医事問題検討委員会
医療安全管理委員会
広報推進委員会
栄養管理委員会
感染対策委員会
診療情報提供委員会
診療情報管理委員会
保険診療委員会
輸血療法委員会
外国人医師等臨床修練委員会
ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽ推進委員会
医療機器管理委員会
外来診療部会議
化学療法ﾚｼﾞﾒﾝ審査委員会
病床管理委員会
医療従事者業務改善委員会
臓器提供委員会
児童虐待対応委員会
ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ運営委員会

理事　鈴木　修《評価・労務・安全管理》 — 調査・労務企画室

大磯義一郎教授(法学)
藤本忠蔵教授(化学)
北川雅敏教授(分子生物学)＊
尾島俊之教授(健康社会)
宮嶋裕明教授(内科学第一) ＊
堀田喜裕教授(眼科学)
巽あさみ教授(地域看護)
川上純一教授(薬剤部)
星詳子教授(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ)
鈴木美恵子副病院長
長谷川篤志次長(総務担当)
山中和之次長(教育・国際交流担当)

《連絡調整担当課》 人事課

企画室所掌事項
評価
職員の採用計画・基準、配置
昇任・昇格基準の作成
職員の研修計画
給与の基本方針
人件費予算の立案・執行
労務・安全管理
環境マネジメント

【 人事課 】
兼業審査委員会
ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止等対策委員会
男女共同参画推進委員会
保健管理ｾﾝﾀｰ運営委員会
技術部運営委員会
◇教員候補者選考委員会
◇教員の再任に関する審査委員会
◇教員任期更新審査委員会
【 施設課 】
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会
医療廃棄物処理ｾﾝﾀｰ運営委員会
【安全衛生管理ｾﾝﾀｰ】
安全衛生委員会
安全衛生管理ｾﾝﾀｰ運営委員会
【 総務課 】
放射線安全委員会

企画室の業務
○ 大学運営に関する担当業務の企画・立案
○ 担当業務に関する予算の立案・執行
○ 中期計画に沿った業務の展開

凡例：委員会・会議
○ は下部組織
◇は臨時に設置するもの

会　議

1 月 5 日 第112回総合企画会議
6 日 第12回教務委員会
第8回大学院修士課程部会
7 日 第196回病院運営企画室会議
第11回大学院博士課程部会
8 日 第9回学生委員会
第140回大学院修士課程教授会
9 日 第113回教育研究評議会
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会
10 日 第8回組換えDNA実験安全委員会*
13 日 第5回輸血療法委員会
第9回国際交流委員会
14 日 臨時国際交流委員会*
第5回図書館運営委員会
15 日 第512回大学院博士課程教授会
16 日 第738回教授会
第5回薬剤管理委員会
19 日 第4回物流管理委員会
第9回情報・広報企画室会議
20 日 第7回調査労務企画室会議
第10回医療安全管理委員会
第10回感染対策委員会
21 日 第108回総務企画室会議
第119回研究推進企画室会議
第127回研究推進委員会
第10回安全衛生委員会
第197回病院運営企画室会議
第111回教育企画室会議
22 日 医の倫理委員会
26 日 第58回外来診療部会議
27 日 第165回知財活用推進会議

1 月 27 日 第2回情報公開・個人情報委員会*
第11回動物実験委員会*
第10回経営企画室会議
28 日 第43回経営協議会
第124回役員会
第19回病床管理委員会
第41回クリニカルパス推進委員会
29 日 第119回診療科長・中央診療施設等部長会議
第28回診療情報管理委員会
2 月 2 日 第113回総合企画会議
第12回大学院博士課程部会
3 日 第13回教務委員会
第10回国際交流委員会
4 日 第198回病院運営企画室会議
第3回助産学専攻科委員会
5 日 第10回学生委員会
6 日 第114回教育研究評議会
第9回入学試験委員会
10 日 第166回知財活用推進会議
第513回大学院博士課程教授会
12 日 第739回教授会
16 日 第13回大学院博士課程部会*
17 日 第11回医療安全管理委員会
第11回感染対策委員会
第9回大学院修士課程部会
図書館運営委員会*
18 日 第120回研究推進企画室会議
第128回研究推進委員会
第11回安全衛生委員会
第199回病院運営企画室会議
第514回大学院博士課程教授会*

2 月 18 日 第112回教育企画室会議
19 日 第109回総務企画室会議
第82回臨床研修管理委員会
第141回大学院修士課程教授会
第10回情報・広報企画室会議
23 日 第8回調査労務企画室会議
第59回外来診療部会議
24 日 第125回役員会
第167回知財活用推進会議
第11回経営企画室会議
25 日 第12回動物実験委員会*
第200回病院運営企画室会議*
26 日 第120回診療科長・中央診療施設等部長会議
3 月 2 日 第114回総合企画会議
第3回保険診療委員会
3 日 第14回教務委員会
第10回大学院修士課程部会
4 日 第14回大学院博士課程部会
5 日 第11回学生委員会
6 日 第740回教授会
7 日 第9回組換えDNA実験安全委員会*
9 日 第15回大学院博士課程部会*
第10回入学試験委員会
10 日 第168回知財活用推進会議
第4回省エネルギー推進専門部会
光学医療診療部連絡協議会
第6回輸血療法委員会
第142回大学院修士課程教授会
第515回大学院博士課程教授会
臨時国際交流委員会*
11 日 第2回実験実習機器センター運営委員会

3 月 11 日 第6回図書館運営委員会
13 日 第115回教育研究評議会
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会
第6回薬剤管理委員会
16 日 第11回情報・広報企画室会議
17 日 第110回総務企画室会議
第4回施設マネジメント専門委員会
第１回医療廃棄物処理センター運営委員会
第12回医療安全管理委員会
第12回感染対策委員会
第15回教務委員会
18 日 第121回研究推進企画室会議
第129回研究推進委員会
第12回安全衛生委員会
第201回病院運営企画室会議
第113回教育企画室会議
19 日 第10回組換えDNA実験安全委員会
ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌｫﾄﾆｸｽ研究ｾﾝﾀｰ運営委員会
20 日 第741回教授会
第11回入学試験委員会
23 日 第60回外来診療部会議
24 日 第169回知財活用推進会議
第12回経営企画室会議
25 日 第44回経営協議会
第126回役員会
第13回動物実験委員会*
第20回病床管理委員会
26 日 医の倫理委員会
第121回診療科長・中央診療施設等部長会議
30 日 第16回教務委員会*

＊ 持ち回りにて開催したもの

発行
浜松医科大学広報室

浜松市東区半田山1-20-1
電話：053-435-2114
Email：koho@hama-med.ac.jp

全面改修を実施し、利便性と執務環境の向上した管理棟
（平成27年4月撮影）